

（1）大学・学科の設置理念

①大学

山形大学は、地域創生、次世代形成、多文化共生を本学の使命として掲げ、地域社会の持続的発展を支える人材、次世代の育成に携わる人材、国際化を推進し多文化共生社会の構築を担う人材の育成を行っている。

また、「自然と人間の共生」を基本テーマとし、5つの基本理念—学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、知の創造、地域創生及び国際社会との連携、不断の自己改革—に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組んでいる。

5つの基本理念の内、「学生教育を中心とする大学創り」では、学生が主体的に学ぶ環境を作り、学生目線を大切にして学生とともに成長する大学を目指す。「豊かな人間性と高い専門性の育成」では、幅広い教養を基盤とした豊かな人間性、高度で実践的な専門性及び課題発見と解決能力を養成する教育を通じて、知・徳・体のバランスのとれた人材を育成する。「知の創造」では、人類の諸課題を解決するため、山形大学の強みと特色を活かした先進的研究を推進する。「地域創生及び国際社会との連携」では、地域に根差して、世界をリードする大学を目指す。「不断の自己改革」では、将来にわたる持続的な成長のため、計画・実行・評価・改善の改革サイクルによる大学改革を継続する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【教育学部学校教育教員養成課程】

教員は、国民一人ひとりの成長に深く関わる、極めて重要な役割を担う。その職責は、子供たちの心身の成長のみならず、国や地域の発展にまで影響を及ぼす。そのため、教員には、高い使命感と子供への深い愛情に加え、教科指導、生徒指導、学級経営における高度で多様な知識・技能、そして多様な関係者との円滑なコミュニケーション能力が求められる。近年では、学習指導要領を踏まえた「見方・考え方」の育成、主体的・対話的で深い学びを創出する授業改善、カリキュラム・マネジメント、児童一人ひとりの発達支援、家庭や地域との連携・協働といった、より高度で複雑な教育活動を担うことが求められている。

しかし、山形県においては、急速な少子化と若手人材の流出、全国平均を下回る学力、不登校やいじめ等の生徒指導上の課題、価値観の相対化が進む子どもたちと大人との間のコミュニケーションの希薄化・価値観の乖離といった、多くの教育課題を抱えている。特に、不登校児童生徒の急増は喫緊の課題であり、その背景には、学校と地域との連携不足、地域社会における成長機会の不足といった問題が存在する。

このような現状認識と課題を踏まえ、本学部は、国立大学として、地域社会の期待に応えられる高度な資質能力を持つ教員を養成し、山形県を中心とする各地域の学校で中核的な役割を担える教員を安定的に輩出するため、一般学部から教育学部に改組する。

上記の課題を解決するため、本学部は、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとして、教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むことができる教員を養成することを目指す。そして、このような教員を地域に多く輩出することで、学校を核とした地域学校協働活動を推進し、地域全体で学び合う成長型コミュニティを創生することにより地域のウェルビーイング増進に貢献する。そのため、本学部では、成長型コミュニティのコーディネーターとして、また、学級のファシリテーターとして中立・対等・公平なコミュニケーションによ

る安心・安全な話し合いの場づくりを行う能力を育成する。また、生涯発達論に基づく年齢主義を廃した入れ子構造で発達を捉え、一人ひとりの発達段階に応じて個別最適な指導を行う能力を育成する。

本学部の教員養成機能を向上させるために、以下の重点事項に取り組む。

1. 教育研究の拡充：大学教員と附属学校園が連携し、共同教育研究をさらに拡充することで、学校教育、教員養成への意識の統一や向上を図り、関連教育研究を深化させる。
2. 高校との接続強化：高校生向けの小学校教員体験セミナーを量・質ともに拡充し、教員志望の高校生が学校や地域での支援活動を体験することで、教職への意欲と目的意識を高め、入学時から教員採用試験準備まで、学生間の意識統一と学習を促進する。さらに体験の範囲を学校と地域の不登校支援活動や放課後支援事業との連携業務へと広げることで地域とつながる教師になる意欲と目的意識を高める。
3. 次世代型教員育成：学校教育の高度化・複雑化および地域の教育課題に対応した教育課程を山形県教育委員会と連携しながら編成・実施することにより、初任段階から教科指導、生徒指導、学級経営、地域連携等を担うとともに、地域の教育課題に的確に対応できる指導力を育成する。
4. 山形県小学校教員希望枠入試の活用：山形県の小学校教員になることを強く希望する入学者が山形県初等教育プログラムで人間力とファシリテーション能力を身につけ、大学内外での学習活動におけるリーダー的存在となって教育実習や地域学校協働活動への参画活動などにおいてリーダーシップを発揮し、教育活動の活性化と深化に貢献することで、教育学部全体の学修の質を向上させる。
5. 大学と教育委員会の連携強化：本学部と教育委員会が連携して、地域学校協働活動を推進し、地域のウェルビーイング増進を目指す。山形県初等教育プログラムの学生とのコーチング面談を通して学生の発達課題への取り組みを含めた目標設定と達成状況を定期的に確認することで教師としての成長を促すコーチング方法を開発し、将来的に教員研修にも活用する他、山形県初等教育プログラムの教育課程編成に山形県教育委員会が関わることなどを通して教員養成、採用、研修を一体化し、質の高い教員育成機能の強化を目指す。
6. 全学的な教員養成の推進：教育学部以外の教職課程を持つ学生についても、質の高い教員を育成するため、全学的な教員養成体制を強化する。
7. 資源の共有化：他学部との資源共有化を進め、専門的な授業科目の共通開設や教員の相互参画を拡大する。特に、理数、データサイエンス、情報関係の教育を強化するとともに、小中免許併有、中学校複数教科免許併有、情報科免許の併有を推進する。
8. 6年一貫教育プログラムの整備：教職大学院進学を前提としたプログラムを整備し、学部と大学院の連携を強化する。学部段階から大学院教員や現職教員との交流を通して、教職への理解を深め、大学院との円滑な接続による体系的な教員養成体制の強化を目指す。

本学部は、上記の教育理念と重点事項に基づき、地域社会の要請に応え、高度な資質能力を持つ教員を育成することを使命として、教員養成に取り組んでいく。

(2) 教員養成の目標・計画

①大学

地域社会を支える学校教育を担う教員の養成は、本学が社会的使命として掲げる「地域創生」と「次世代形成」において、最重要課題として位置づけられる。本学が養成する教員には

人口減少が著しい東北地方において次世代を担う児童・生徒を育てる役割を期待しており、教員養成の理念として、カリキュラムと授業の構想、教材開発から学習評価までを着実に実行する確かな「授業力」、多様な他者との対話ができる豊かな「人間力」と急速な社会の変化に対応できる豊かな「人間力」と急速な社会の変化に対応できる「社会力」、地域に根差した教育実践ができる「実践力」を備えた教員を養成することを目標としている。

そして、この目標を達成するために次の計画を推進している。

- (1) 教育実習の充実、教育ボランティア等を通して「実践と理論の往還」を進める。
- (2) グローバル化に対応し、ICT教育の授業開発やコミュニケーション教育を進める。
- (3) インクルーシブ社会を実現するための教育を進める。
- (4) FD活動などPDCAサイクルを通して、教員養成カリキュラムを不断に改善する。

②学科等（認定を受けようとする学科等のみ）

【教育学部学校教育教員養成課程】

山形大学の教育目標を踏まえ、教育学部学校教育教員養成課程では、学校や地域社会におけるウェルビーイング増進と地域の教育課題の解消に関わる幅広い知識・技能を分野横断的に教授して、「地域の中で学び続ける子どもの育成」「教育を中心とする地域の諸課題の解消」「地域のウェルビーイング増進」を支え、地域の人々とともに、地域社会の持続的発展に取り組む実践性を備えた教員を養成することを目的とする。

目標を達成するため、以下のように教育課程を編成し、実施する。

- ①基盤共通教育においては、1年次を中心に、「導入科目」、「基幹科目」、「教養科目」、「共通科目」をバランスよく履修し、広い視野・教養を得る。また、「共通科目」では、3年一貫教育としてコミュニケーション・スキル1（英語）を履修し、英語運用能力の向上を促す。
- ②学部専門教育においては、専門教育科目を、「中心科目」、「基礎科目」、「専門科目」、「発展科目」の4つのカテゴリーに分類し、体系的・段階的に学ぶことができるように配置する。
- ③「中心科目」は、学部共通科目として位置づけ、教育を中心とする地域の諸課題およびウェルビーイング増進に資する諸科学について理解するための科目群と、専門教育で学んでいる知識・技能を総合的に活用しながらウェルビーイング増進の観点から地域の諸課題解消に向けて企画・運営・実行していく実践演習のための科目群とで編成する。
- ④基盤共通科目・専門教育科目の一部を「自由選択科目」として配置する。
- ⑤学校教育教員養成課程に小学校教員養成コース、中学校教員養成コース、理数系教員養成コース、心理支援系教員養成コースの4コースを設置し、各コースの教育目標に沿った教育プログラムを配置する他、教育プログラムの学修に追加するアドバンスプログラムとして各コースに教職大学院進学を前提にした6年一貫教育を行うチャレンジプログラムを、小学校教員養成コースと中学校教員養成コースに特別支援教育のスペシャリストの養成を行う特別支援教育プログラムを配置する。

【小学校教員養成コース】

山形大学及び教育学部の教育目標を踏まえ、小学校教員養成コースでは、幼稚園・小学校や地域社会におけるウェルビーイング増進のための教材開発、個別最適な学習と協働的な学習の連携およびインクルーシブ教育に関わる幅広い知識・技能を分野横断的に教授して、学校・地

域・家庭が連携した教育を支え、地域の人々とともに、地域社会の持続的発展に取り組むファシリテーション能力を備えた教員を養成することを目的とする。

小学校教員養成コースに2プログラムを配置する。

- 初等教育プログラム：校種間接続あるいは地域連携に対する理解を備えた小学校教育のスペシャリストを養成する。小一種免許状（必須）。中・高一種免許状（国語科、社会科、数学科、理科、英語科、音楽科、美術科、保健体育科。高校社会は地歴科、公民科）または幼一種免許状の取得を推奨する。
- 山形県初等教育プログラム（学校推薦型選抜IIによる入学者向け）：初等教育プログラムの学修に加えて山形県の教育課題に関わる実践的な少人数学習による「しなやかに」そだつ・そだてる、地域と「ゆたかに」つなぐ・つながる山形県小学校教員を養成する。小一種免許状（必須）。中・高一種免許状（国語科、社会科、数学科、理科、英語科、音楽科、美術科、保健体育科。高校社会は地歴科、公民科）または幼一種免許状の取得を推奨する。

【中学校教員養成コース】

山形大学及び教育学部の教育目標を踏まえ、中学校教員養成コースでは、中学校・高等学校や地域社会におけるウェルビーイング増進のための教材開発、個別最適な学習と協働的な学習の連携およびインクルーシブ教育に関わる幅広い知識・技能を、教科専門を中心として発展的に教授して、学校・地域・家庭が連携した教育を支え、地域の人々とともに、地域社会の持続的発展に取り組む柔軟で創造的な提案力を備えた教員を養成することを目的とする。

中学校教員養成コースに6プログラムを配置する。

- 国語科教育プログラム：国語科の専門性と教科等横断、校種間接続あるいは地域連携に対する理解を備えた中学校教員の養成。国語科の中一種免許状（必須）。国語科の高一種免許状または小一種免許状の取得を推奨する。
- 社会科教育プログラム：社会科の専門性と教科等横断、校種間接続あるいは地域連携に対する理解を備えた中学校教員の養成。社会科の中一種免許状（必須）。地歴、公民科の高一種免許状または小一種免許状の取得を推奨する。
- 英語科教育プログラム：英語科の専門性と教科等横断、校種間接続あるいは地域連携に対する理解を備えた中学校教員の養成。英語科の中一種免許状（必須）。英語科の高一種免許状または小一種免許状の取得を推奨する。
- 音楽科教育プログラム：音楽科の専門性と教科等横断、校種間接続あるいは地域連携に対する理解を備えた中学校教員の養成。音楽科の中一種免許状（必須）。音楽科の高一種免許状または小一種免許状の取得を推奨する。
- 美術科教育プログラム：美術科の専門性と教科等横断、校種間接続あるいは地域連携に対する理解を備えた中学校教員の養成。美術科の中一種免許状（必須）。美術科の高一種免許状または小一種免許状の取得を推奨する。
- 保健体育科教育プログラム：保健体育科の専門性と教科等横断、校種間接続あるいは地域連携に対する理解を備えた中学校教員の養成。保健体育科の中一種免許状（必須）。保健体育科の高一種免許状または小一種免許状の取得を推奨する。

【理数系教員養成コース】

山形大学及び教育学部の教育目標を踏まえ、理数系教員養成コースでは、学校や地域社会におけるウェルビーイング増進のための自然科学・情報教育に関する教材開発および個別最適な

学習と協働的な学習の連携に関わる幅広い知識・技能を、分野横断的あるいは教科専門を中心として発展的に教授して、学校・地域・家庭が連携した教育を支え、地域の人々とともに、地域社会の持続的発展に取り組むデジタルテクノロジー活用力を備えた教員を養成することを目的とする。

理数系教員養成コースに4プログラムを配置する。

- 初等理数教育プログラム：自然科学に対する広い専門性を有する小学校教育のスペシャリストを養成する。小一種免許状（必須）。数学科または理科の中・高一種免許状、または幼一種免許状の取得を推奨する。
- 中等理科教育プログラム：理科と情報科学に対する深い専門性を有する中学校教育のスペシャリストの養成。理科の中一種免許状（必須）。理科もしくは情報の高一種免許状の取得を推奨する。
- 中等数学科教育プログラム：数学と情報科学に対する深い専門性を有する中学校教育のスペシャリストの養成。数学の中一種免許状（必須）。数学もしくは情報の高一種免許状の取得を推奨する。
- 山形県初等理数教育プログラム（学校推薦型選抜IIによる入学者向け）：初等理数教育プログラムの学修に加えて山形県の教育課題に関わる実践的な少人数学習による「しなやかに」そだつ・そだてる、地域と「ゆたかに」つなぐ・つながる山形県小学校教員を養成する。小一種免許状（必須）。数学または理科の中・高一種免許状または幼一種免許状の取得を推奨する。

【心理支援系教員養成コース】

山形大学及び教育学部の教育目標を踏まえ、心理支援系教員養成コースでは、幼稚園・小学校や地域社会におけるウェルビーイング増進のための個別最適な学習と協働的な学習の連携および学校の心理的問題解決に関わる幅広い知識・技能を分野横断的に教授して、学校・地域・家庭が連携した教育を支え、地域の人々とともに、地域社会の持続的発展に取り組む幼稚園・小学校における心理的支援の専門性を備えた教員を養成することを目的とする。

心理支援系教員養成コースに1プログラムを配置する。

- 心理支援教育プログラム：学校現場での心理的援助に対する専門性を有する小学校教育のスペシャリストを養成する。小一種免許状（必須）。准学校心理士資格に必要な科目の履修を推奨するとともに公認心理師受験に必要な科目を開設する。

教育方法については、次のように実施する。

- ①基礎的かつ包括的な知識を習得する科目群と実践的かつ基礎的技術を習得する科目群とを相互補完的に履修させ、知の実践力の育成を促す。
- ②主体的な課題発見・解決能力を培うために、学生主体の実習型・演習型授業を学年進行に伴って拡充する。
- ③人間性及び社会性の涵養を促進するために、協働による参加型・対話型授業を初年次から展開する。

教育評価については、以下の方針で行う。

- ①学生自身による到達度の検証と自主的・自律的改善を可能にするような具体的な評価基準を策定し、学習成果を評価する。

②教育を中心とする地域の諸課題解消及びウェルビーイング増進のために実践力を総合的に活用し、企画・運営・実行する主体性・自律性を評価する。

以上の教育課程の編成・実施方針に基づき、基盤共通教育および学部の専門教育を通じて、以下の知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（教育学）」の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と社会性

- (1) 教育に対する使命感と情熱、問題意識を持ち、生涯にわたる発達に向けて自身の課題と向き合いながら積極的に学び続けることができる。
- (2) 教師の責務の重大さと地域社会のウェルビーイング増進に貢献する必要性に対する自覚に基づき、高い倫理観と責任感を伴った行動ができる。
- (3) 相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとして教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むことができる

2. 幅広い教養と汎用的技能

- (1) 学校教育及び学校・家庭・地域の連携、地域社会のウェルビーイング増進についての基本的知識がある。
- (2) 個別最適な学習と協働的な学習の連携およびインクルーシブ教育を踏まえた指導力がある。
- (3) デジタルテクノロジーを適切に活用しながら教育を中心とする地域の諸課題を踏まえた教材開発力を身につけている。
- (4) 子どもの成長と学校教育を支える多様な人々や組織との連携を図り、多様な人々が互いに尊重し学びあう場づくりのためのコミュニケーション能力がある。

3. 専門分野の知識と技能

- (1) 国や地域の教育政策の動向を踏まえ、地域社会のウェルビーイング増進につながる学校・地域・家庭が連携した教育を支えるために必要な専門的知識や技能を身につけている。
- (2) 専門分野の知識と技能を活用しながら教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むことができる。

(3) 認定を受けようとする課程の設置趣旨（学科等ごとに校種・免許教科別に記載）

【教育学部学校教育教員養成課程】

【幼稚園教諭一種免許状】

小学校教員養成コースでは、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、幼稚園教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むとともに小学校教育に関する科目を学修することで校種間接続および地域連携に対する理解を備えた幼児教育のスペシャリストとしての教員を養成する。

【小学校教諭一種免許状】

小学校教員養成コースでは、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、小学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むとともに副免許状として幼稚園・中学校等、他校種免許状取得に関する科目を学修することで校種間接続および地域連携に対する理解を備えた小学校教育のスペシャリストとしての教員を養成する。

理数系教員養成コースでは、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、小学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むとともに副免許状として中学校高等学校理科あるいは数学科教諭免許状取得に関する科目を学修することで自然科学に対する広い専門性を有する小学校教育のスペシャリストとしての教員を養成する。

心理支援系教員養成コースでは、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、小学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むとともに准学校心理士資格に必要な科目を学修することで学校現場での心理的援助に対する専門性を有する小学校教育のスペシャリストを養成する。

【特別支援学校一種免許状（知・肢・病）】

小学校教員養成コースでは、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、特別支援学校での教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むとともに小学校教育の専門性を基盤とした特別支援教育のスペシャリストとしての特別支援学校教員を養成する。

中学校教員養成コースでは、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、特別支援学校での教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組むとともに中学校各教科教育の専門性を基盤とした特別支援教育のスペシャリストとしての特別支援学校教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（数学）】

理数系教員養成コースでは、自然科学および代数学・幾何学・解析学・統計学等に対する深い専門性と中学校・高等学校の数学科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校・高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（理科）】

理数系教員養成コースでは、自然科学および物理学・化学・生物学・地学等に対する深い専門性と中学校・高等学校の理科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校・高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（国語）】

中学校教員養成コースでは、国語学・国文学・漢文学・書道に対する深い専門性と中学校・高等学校の国語科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校・高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【中学校教諭一種免許状（社会）】

中学校教員養成コースでは、歴史学・地理学・倫理学等に対する深い専門性と中学校の社会科学の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（地理歴史）】

中学校教員養成コースでは、歴史学・地理学・地誌学に対する深い専門性と高等学校の地理・歴史科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（公民）】

中学校教員養成コースでは、法律学・政治学・社会学・経済学・倫理学等に対する深い専門性と高等学校の公民科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（英語）】

中学校教員養成コースでは、英語学・英語文学・英語コミュニケーション・異文化理解に対する深い専門性と中学校・高等学校の英語科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校・高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（音楽）】

中学校教員養成コースでは、ソルフェージュ・声楽・器楽・四季報・音楽理論等に対する深い専門性と中学校・高等学校の音楽科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校・高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（保健体育）】

中学校教員養成コースでは、体育実技・スポーツ諸科学・生理学・衛生学・学校保健に対する深い専門性と中学校・高等学校の保健体育科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校・高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【中学校・高等学校教諭一種免許状（美術）】

中学校教員養成コースでは、絵画・彫刻・デザイン・工芸・美術史等に対する深い専門性と

中学校・高等学校の美術科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、中学校・高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

【高等学校教諭一種免許状（情報）】

理数系教員養成コースでは、自然科学および情報社会・情報倫理・情報科学・マルチメディア表現技術に対する深い専門性と高等学校の情報科の教科指導力を備え、相互尊重と相互理解を促す安心・安全な場づくりの基盤の上に多様な人々が互いに学び合う関係を生み出すファシリテーターとなり、高等学校教育を中心とする地域の諸課題の解消とウェルビーイング増進に取り組む教員を養成する。

I. 教職課程の運営に係る全学的組織及び各学科等の組織の状況

(1) 各組織の概要

①

組織名称：	山形大学教員養成委員会
目的：	本学における教員養成システムを構築し、教員養成に係る社会的責任を果たすために山形大学の教員養成に係る全学的な方針、計画、評価等に関する事項について審議を行う。
責任者：	教員養成委員会委員長
構成員(役職・人数)：	委員長(教育関係業務を担当する副学長)1名、副委員長(教育学部長)1名、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員(以下「主担当教員」という。)として人文社会科学部、教育学部、理学部及び工学部に配置された教員の中から当該学部において選出された者各1名、主担当教員として教育実践研究科に配置された教員の中から選出された者1名、山形大学教職研究総合センターの業務を担当する教員の中から選出された者1名、附属学校運営部長、エンrollment・マネジメント部教務課長、その他委員会が必要と認めた者計10名
運営方法：	<p>規程により以下の事項について協議することが定められている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員養成の全学システム、カリキュラムの学部間協力等教員養成に係る全学方針に関する事項 ・教育実習の全学方針に関する事項 ・教職課程の自己点検・評価に関する事項 ・その他教員養成等に関する事項 <p>エンrollment・マネジメント部教務課教育企画担当で議題を整理した上で、委員長が年2回の定例会議に加えて、必要に応じて臨時の会議を開催する。定例会議の主な議題としては、教職課程の自己点検・評価、次年度各学部の教職科目の授業時間割、教職課程FD研修会等が挙げられる。</p>

②

組織名称：	山形大学教育学部教授会
目的：	学長が定める事項について決定を行うに当たり意見を述べるほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることを目的とする。
責任者：	教育学部長
構成員(役職・人数)：	教育学部長1名、山形大学学術研究院規程第8条第1項に基づく主担当教員として教育学部および大学院教育実践研究科に配置された教授、准教授、講師及び助教計66名
運営方法：	<p>規程により以下の事項について意見を述べる事が定められている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 学生の入学及び卒業に関する事項 (2) 学位の授与に関する事項

<p>(3) 教育課程の編成に関する事項</p> <p>(4) 教員の教育研究業績審査に関する事項</p> <p>(5) その他学部の教育研究に関する重要事項で、学長が別に定めるもの</p> <p>教育学部事務室総務担当で議題を整理したうえで、学部長が月1回の定例会議に加えて、必要に応じて臨時の会議を開催している。定例会議の主な議題としては、学生の異動について、単位の認定について、入試募集要項について、非常勤講師の委嘱について、教員養成実地指導講師の委嘱について、卒業判定について、入試合格判定について、教職課程の自己点検・評価について、学年歴について、学生便覧について、規則の改正について等が挙げられる。</p>

③

組織名称： 教育学部学務委員会
目的： 教務および学生支援に関する事項について教育学部及び大学院教育実践研究科の一体的な審議を行うことを目的とする。
責任者： 教育学部学務委員長
構成員(役職・人数)： 学務委員長1名、副学部長1名、統括教育ディレクター1名、教育学部各コースから選出された者(山形大学教育学部就任後2年未満の者を除く)11名、大学院教育実践研究科主担当教員から選出された者1名 計15名
<p>運営方法：</p> <p>規程により所掌することが定められている以下の事項について審議を行い、必要に応じて審議結果を教授会に上程する。</p> <p>(1) 教育課程(フィールドプロジェクト及びチャレンジプログラムに関することを含む)に関する事項</p> <p>(2) 学生の入学(地域教育文化学部入学試験委員会の所掌に関する事項を除く。)及び必要な単位の認定並びに卒業及び修了の認定に関する事項</p> <p>(3) 学生の学籍に関する事項</p> <p>(4) 教育実習,介護等体験及びインターンシップに関する事項</p> <p>(5) 学生の厚生補導に関する事項</p> <p>(6) 学生の諸団体に関する事項</p> <p>(7) 非常勤講師(教員養成実地指導講師を含む。以下同じ。)の時間配分に関する事項</p> <p>(8) 非常勤講師の資格審査に関する事項</p> <p>(9) 聴講生,科目等履修生,研究生及び特別聴講学生に関する事項</p> <p>(10) 教育方法等の改善に関する事項</p> <p>(11) 学生の就職に関する事項</p> <p>(12) 教育実習支援オフィスに関する事項</p> <p>(13) 委員会の所掌事項に係る広報活動に関する事項</p> <p>(14) その他学生及び教育に関する事項</p> <p>教育学部事務室教務担当で議題を整理したうえで、学務委員長が月1回の定例会議に加えて、必要に応じて臨時の会議を開催する。定例会議の主な議題としては、学生の異動について、単位の認定について、非常勤講師の委嘱について、教員養成実地指導講師の委嘱について、卒業判定について、教職課程の自己点検・評価について、学年歴について、学生便覧について等が挙げられる。</p>

様式第7号イ

④

組織名称：	山形大学附属学校運営会議
目的：	山形大学に置く附属幼稚園、附属小学校、附属中学校及び附属特別支援学校における運営に関する事項を審議することを目的とする。
責任者：	附属学校運営部長
構成員(役職・人数)：	附属学校運営部長1名、附属学校運営副部長(実習担当・研究担当)各1名、附属学校の校長・園長4名、附属学校教頭3名、総務部総務課附属学校事務室長1名 計11名
運営方法：	<p>規程により以下の事項について審議することが定められている。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 附属学校相互の連絡調整に関する事項 (2) 学校教育の研究及びその実証に関する事項 (3) 教育実習の実施に関する事項 (4) 入学及び編入学に関する事項 (5) 学級組織及び編成に関する事項 (6) 教員の人事に関する事項 (7) 附属学校の予算に関する事項 (8) 附属学校の施設整備に関する事項 (9) 学校評議員の選考に関する事項 (10) 附属学校の点検評価に関する事項 (11) その他附属学校の運営に関する事項 <p>総務部総務課附属学校事務室長で議題を整理したうえで、附属学校運営部長が会議を開催する。</p>

⑤

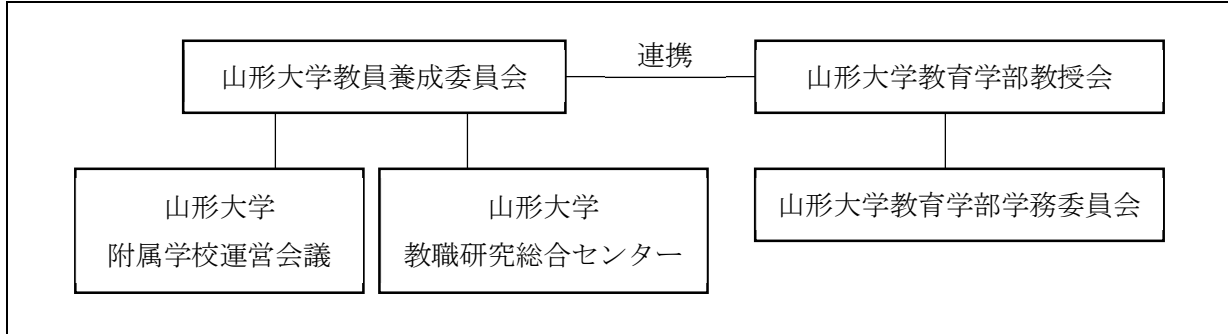
組織名称：	山形大学教職研究総合センター
目的：	全学の教職課程の整備充実を図るとともに、地域の教育力の向上に貢献することを目的とする。
責任者：	教職研究総合センター長
構成員(役職・人数)：	教職研究総合センター長(教育学部長)1名、教職課程研究部門長1名、教職課程研究部門教員4名、心理臨床研究部門長1名、心理臨床研究部門教員2名、教育臨床研究部門長1名(教職課程研究部門長兼務)、教育臨床研究部門教員1名(教職課程研究部門兼務)計9名
運営方法：	<p>【教職課程研究部門】</p> <p>教職科目のカリキュラム編成、学生に対する教員免許に関する履修指導、教育実習の事前指導、現職教員に対する指導、教員免許状更新講習の全体計画の立案、教職教育の研究と成果公表(紀要『教職・教育実践研究』の刊行)を行う。</p> <p>【心理臨床研究部門】</p> <p>地域住民に対する心理教育相談、臨床心理セミナーの開催、学校からの依頼に対するコンサルテーション、社会文化創造研究科大学院生に対する臨床実習の指導、臨床研究と研究成果の公表(紀要『心理教育相談室紀要』の刊行)を行う。</p>

様式第7号イ

【教育臨床研究部門】

各市町村教育委員会や学校との共同研究のコーディネート、紀要『教職・教育実践研究』の刊行の援助を行う。

(2) (1) で記載した個々の組織の関係図



II. 都道府県及び市区町村教育委員会、学校、地域社会等との連携、協力に関する取組

(1) 教育委員会との人事交流・学校現場の意見聴取等

山形県小学校教員希望枠入試（学校推薦型選抜Ⅱ）による入学者を対象とした山形県初等教育プログラム、山形県初等理数教育プログラムでは、山形県教育委員会と連携して山形県の教育課題に対応して教員養成に求められる知識・能力について定期的に協議を行い、「地域教育実践演習Ⅰ～Ⅳ」の授業内容を設定している他、山形県教育委員会の指導主事が授業の一部を担当している。また、山形県内の小学校教員を志望する高校生を対象に、山形県教育委員会と教育学部の連携事業である小学校教員体験セミナーを実施し、小学校教員を志望する高校生が教師の仕事の魅力を見出して地域とつながる教師になる意欲と目的意識を高めている。さらに、教育学部に設置された山形県初等教育プログラムと山形県初等理数教育プログラムおよび小学校教員体験セミナーの実施に関わる特別プログラム運営部の上部組織として山形大学と山形県教育委員会の連携協定に基づく合議体「地域学校協働活動活性化につながる教員養成研修システム運営協議会」を設置している。この合議体では定期的に教育プログラムの実施状況と学生の学修成果について協議し、教育プログラム内容等の改善を図りながら小学校教員体験セミナー・山形県小学校教員志望枠入試・特別プログラム・教員選考試験・採用後の研修の活動を一体的に実施することで地域学校協働活動活性化のスターターとしての教員養成システムを構築することを目指している。

また、「地域学校協働インターンシップ」では学生を山形市教育委員会主催の地域学校協働活動推進員研修会に参加させたり、山形県教育委員会と連携して高校生の小学校教員体験セミナーに学生をメンターとして派遣したりするなど、山形県教育委員会や山形市教育委員会とも連携・協力を図り、地域の教育課題の解決に向けた取り組みを行っている。また、山形市内の学校にスクールサポーターとして学生を派遣するなど、各学校とも連携・交流を図っている。

その他、小白川キャンパス教育実習委員会において附属学校（園）及び各教育委員会、各実習校と連携・協力を図りながら教育実習を実施している。毎年、教育実習前には打ち合わせ会、教育実習後には協議会を実施し、教育実習の指導体制や大学での事前事後指導の在り方を含めて実習校と協議することで指導方法等の改善に努めている。

様式第7号イ

(2) 学校現場における体験活動・ボランティア活動等

①

取組名称：	スクールサポーター
連携先の調整方法：	山形市立小中学校へ学部 2 年次以上の学生をスクールサポーターとして派遣し、授業補助や特別支援教育の補助などに当たらせるものである。年度当初に学生の希望を集約した後、山形市教育委員会と派遣先の調整会議を実施している。
具体的な内容：	平成 10 年度より地域教育文化学部（開始当時は教育学部）と山形市教育委員会との協働により、教員志望の学生が児童・生徒と直接にふれあい学び、また現場の教員からの指導を受けることにより、実践的指導力の基礎を育成することなどを目的とした「フレンドシップ事業」を実施している。本事業の一環として、山形市立小中学校へ学部 2 年次以上の学生をスクールサポーターとして派遣している。なお本取組は、「教育臨床体験（教育ボランティア）」として、必要な条件を満たすことで単位取得が可能となっている。山形市内小中学校における授業補助や特別支援教育の補助などを通して児童生徒と接する。週 1 回 4 時間（半日）の活動を原則としている。

②

取組名称：	適応教室支援
連携先の調整方法：	山形市総合学習センター内に設置されている教育支援センター（適応指導教室）である適応教室「風」に学生が支援スタッフとして参加するものである。年度当初に「風」の年間計画に基づいて参加可能な学生を確定し、山形市総合学習センターおよび「風」の教育相談員と実施に係る打ち合わせを行っている。
具体的な内容：	本取組も上掲「フレンドシップ事業」の一環であり、「教育臨床体験（適応教室）」（4 年次以上対象）として授業化している。教員志望の学生が「風」の週日課（スポーツ活動への参加および企画・運営）や、体験学習（野草園見学、野外調理実習、合宿教室、スキー教室）に参加し、教育相談員の指導のもと不登校児童生徒と接し、その支援に当たる。学生は適応教室「風」での活動について日誌に記録し、定期的に日誌を大学側の担当教員に提出して助言・指導を受けることを求められる。これらの活動を通し、学生は不登校児童生徒の理解を深め、対応方法を身につける。

③

取組名称：	科学体験教室
連携先の調整方法：	学部と山形市総合学習センターとが連携し、山形市内の小・中学生を対象とした実験教室を開催するものである。年度当初に参加学生の確定後、山形市総合学習センターと教室実施に係る打ち合わせを行っている。
具体的な内容：	本取組も上掲「フレンドシップ事業」の一環である。現在は「フィールドプロジェクト（科学体験教室）」として授業化し、実施している。学部と山形市総合学習センターの連携のもと、山形市内の小・中学生を対象とした「おもしろ実験教室」「親子科学あそび教室」「プログラミングキッズクラブ」の企画・運営を通して、地域課題の解消に資する自然科学の知識とスキルの獲得を図る。

Ⅲ. 教職指導の状況

入学当初の集中講義科目「学部導入セミナー」で4年間の学習目標および卒業後のキャリア形成を考えた上で取得を希望する副免許状について検討させ、履修のための説明会を実施する。また、「教職論」の授業でなりたい教師像を踏まえた大学での学習目標を立てさせる他、毎学期のオリエンテーション時にアドバイザー教員が学生に履修カルテの確認と自己評価を行うよう指導するとともに、必要に応じて教職科目の履修相談を実施する。就職支援専門委員会では教員採用試験を受験する3年生・4年生を対象にセミナーを実施し、教師になるための課題の自覚と克服のための指導を行う。4年次の教職実践演習では、卒論指導教員との面談で履修カルテによる自己分析と課題確認を行い、課題に応じた選択課題の学習を行うとともに教員として必要とされる資質・能力が備わっていることの最終確認を行う。

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：幼一種免）

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	基盤教育を通してさまざまな学問に触れ、学問の学び方を習得するとともに、現代の社会や教育の状況について関心をもつ。専門教育では、教育の歴史を通して各時代の教育の理念・実態について理解し、今日求められている教育のあり方、特に教師に求められている役割・使命について認識する。また、教師に求められている資質を理解する。
	後期	基盤教育では、主として英会話の能力を高める。専門教育では、発達心理学の履修を通して、幼児・児童の発達の特徴を理解する。また、幼児教育から小学校教育への架け橋となる「生活科」という教科の特徴と意義について学ぶ。さらに、障害児の障害の種類・程度による違い、行動等の特徴についても理解する。
2年次	前期	子どもの生活、とりわけ言葉やアートによる表現の特徴を理解し、伸び伸びと表現できるように導く方法・技術を学ぶ。小学校における教育実習を通して、実際に子どもたちとかわることを通して、未解決な点があれば課題を整理しておく。
	後期	昨今の子ども・幼児が置かれている状況について理解し、保育の課題を知り、その課題を解決するための方法を考える。特に、「保育内容(健康)」では、幼児の心理的安定に不可欠な教師や友だちと安心してかわることができる関係を築く方法やポイントを理解する。また、幼児の行動や身体の特徴を踏まえ、身体を動かす遊びについて学ぶ。また、音楽に敏感に反応する幼児の特性を生かし、幼児に音楽を楽しんでもらう方法・技能を身に付ける。
3年次	前期	幼児の特性を理解し、受容の技能を習得する。その上で、成長・発達が著しい幼児の言語能力や造形表現力を更に発達させる方法を学ぶ。また、人間関係もますます広がる中で、対人関係において衝突・葛藤する中で、子どもが教師や友だちと遊びを楽しみながら最後までやり遂げるように援助する方法を身につける。絵画表現(描写)の能力も年齢とともに著しく発達するので、楽しく、かつより美しく表現する技能を身につけさせるための方法を修得する。授業で習得した知識・技能を、小学校低学年の実習において活用し、知識を深め、技能を磨く。
	後期	幼児からの相談や悩みに的確に対応し、それらを幼児の発達・成長の機会に転化できるような技能を身に付ける。また、幼児の発達や家庭での接し方等について、保護者からの相談に対応できる技能を身に付ける。
4年次	前期	3年次までに習得した幼児教育の知識・技能を振り返り、教育実習に備えて自己の課題を確認する。
	後期	それまでに学んだ知識・技能を、幼稚園実習においてどの程度活かすことができるか試みる。特に、実習前に意識していた課題をどれだけ解決できるか、試みる。実習で気付いた課題を、「教職実践演習」の授業を通して、他の人からの意見も参考にしながら振り返り、教職に就くまでに自分の課題を解決する。

様式第7号ウ（教諭）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：幼一種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		保育内容の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	領域に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論			日本国憲法	
		教職論			スポーツセミナー	
					英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
	後期				データ解析基礎	
		発達心理学				
		特別支援教育総論				
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	幼児と言葉（第2ターム）			
		教育実践実習事前・事後指導（幼・小）	幼児と人間関係（第1ターム）			
		教育実践基礎実習（幼・小）	幼児と環境（第1ターム）			
	後期	教育社会学				
		保育内容（健康）				
		保育内容（環境）				
		幼児教育指導法				
3年次	前期	保育内容（表現A）		教員になるための学校防災		
		保育内容（表現B）				
		幼児の理解				
		保育内容（人間関係）				
		保育内容（言葉）				
		保育内容（環境）				
		教育課程編成論				
	教育実践実習A					
	後期	教育相談				
4年次	前期					
	後期	幼稚園実習				
教職実践演習						

様式第7号ウ

<学校教育教員養成課程> (認定課程: 小一種免)

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につくために必要とされる憲法と人権尊重、データサイエンスに関する基礎的な知識と技能、健康とスポーツ科学、基礎的な英語能力などの教養およびファシリテーションの基礎的技術を身につけている。教職の意義、教員に求められる資質能力、多様な教育理念を踏まえて、なりたい教師像を明確にした上で4年間の学習目標を立てることができる。
	後期	国語および英語の話す、読む、聞く、書く力を身につけている。児童の心身の発達過程と特徴を理解し、発達を踏まえた学習指導の基礎となる考え方を理解している。また、特別の支援を必要とする児童の障害の特性を踏まえた個別の指導計画や教育支援計画を作成することができる。
2年次	前期	主体的対話的で深い学びの実現に必要な基礎的な指導技術と情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を身につけている。教授学習の場面に学習理論を応用した観察を行い、その特徴を報告することができる。各教科の教材研究を深めて実践力を高めるための基盤となる各教科特有の見方・考え方を身につけ、実践することができる。
	後期	各教科の目標を達成するための学習指導と評価に関する知識を踏まえて模擬授業において実践することができる。総合的な学習の時間の指導場面を想定しながら探求的な学習を実践するための指導計画を作成することができる。ウェルビーイング増進の必要性を理解し、地域社会のウェルビーイング増進につながる地域活動との関わりを生かした教育を行うために必要とされるコーディネートとファシリテーションの実践的な技術について説明できる。
3年次	前期	学習指導要領改訂の変遷とカリキュラム・マネジメントによる授業改善の意義及び評価方法を理解し、説明することができる。各教科の見方・考え方を働かせて主体的・対話的で深い学びを実現する学習指導案を作成し、模擬授業と授業改善の検討を行うことができる。地域の地理的条件を踏まえた適切な学校の防災管理と防災教育の方法について説明できる。教育実習の場で児童との関わりを通して児童の実態を把握した上で、それを踏まえて適切な学習指導案を作成し、授業実践を行うことができる。
	後期	学校カウンセリングの基礎的な理論と技法を踏まえて実際の学校現場の事例について課題解決策と予防につながる支援方法を説明できる。教育実習の経験を基に各教科の教育目標・内容・方法と児童の実態を踏まえて、実習での課題克服につながる教材開発と模擬授業を行うことができる。山形県の教育課題を踏まえながら山形県教育振興計画が目標とするウェルビーイングを目指してチャレンジする人間像に向けて児童を育てるための学級経営案を作成し、その効果について説明できる。小学校理科の観察・実験・野外巡検の基礎的スキルと科学的思考力を踏まえて探究的に観察・実験を行うことができる。
4年次	前期	中学校あるいは特別支援学校における副免許状に関わる教育実習の場、あるいは教育ボランティアの場において、大学で学んだ内容を活かして子どもの実態を踏まえながら適切に子どもと関わったり、適切な学習指導案を作成して授業実践を行った後、事後検討を行って授業実践を改善したりすることができる。学級担任の役割と職務内容について実地に即して身につけ、学級担任や教科担任の補助的な役割を担うことができる。
	後期	子どもの多様な学びを支援する学校内外の組織・団体等の支援スタッフと教員との連携、および学校と学童保育やフリースクール等の学校外の組織・団体との連携・協働のあり方に対する自らの具体的な見通しについて説明できる。教員としての倫理・服務・使命感について当事者意識を持った説明ができる。履修カルテに基づいて適切な目標と履修計画を設定、実行し、目標を達成することができる。教科指導及び学級経営・生徒指導について最低限度の実践力を身につけると共に課題を自覚し、克服に向けた方策を説明できる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：小一種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	
		教育原論			英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
					スポーツセミナー	
					データ解析基礎	
	後期	特別支援教育総論	国語の基礎			
		発達心理学	外国語の基礎			
		初等教科教育法Ⅰ(社会)				
初等教科教育法Ⅰ(算数)						
初等教科教育法(生活)						
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	音楽の基礎			
		初等教科教育法Ⅰ(国語)	図画工作の基礎			
		教育実践基礎実習(幼・小)	体育の基礎			
			算数の基礎			
	後期	総合的な学習の時間論		地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学				
		道徳教育の理論と実践				
		初等教科教育法Ⅰ(理科)				
		初等教科教育法(音楽)				
		初等教科教育法(図画工作)				
		初等教科教育法(家庭)				
		初等教科教育法(外国語)				
	集中	教育実践実習事前・事後指導(幼・小)				教育臨床体験(介護等体験)
						教育臨床体験(教育ボランティア)
	3年次	前期	教育課程編成論		教員になるための学校防災	
			特別活動論			
			生徒指導・進路指導			
初等教科教育法Ⅱ(国語)						
初等教科教育法Ⅱ(社会)						
初等教科教育法Ⅱ(算数)						
初等教科教育法Ⅱ(理科)						
教育実践実習A						
後期		教育相談	理科の基礎(実験を含む)	地域社会の教育計画		
		教材開発演習				
集中		教育実践実習事前・事後指導(幼・小)			フィールドプロジェクト	
4年次		前期				
		後期	教職実践演習			
	集中	地域学校協働インターンシップ			教育臨床体験(適応教室)	

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（国語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の本質を理解し、教員としての基本的な態度、明確な教育観が身についている。教職において求められる基本的で幅広い教養としての憲法の基本的知識・法学的施行、スポーツへの理解、基礎的な英語力を身に付けている。GIGAスクール構想に基づくICTの積極的な活用が求められる学校現場に必要なデータサイエンスの基礎的な操作が行える。国語科の教育内容の核となる言語や文学といった言語文化の基礎的な素養を身に付けている。
	後期	少年期・青年期の精神的な発達などを理解している。また「誰一人取り残さない教育」の実現に不可欠な特別支援教育やインクルーシブ教育についての現状と方法を理解している。多文化社会における円滑なコミュニケーションスキルとしての発表技術や討議能力(英語を含む)を身に付けている。国語学・日本文学の基礎的事項について理解している。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識である教育方法や技術の基礎概念、情報通信技術を活用した教育の理論や方法について理解している。教育実践基礎実習を通して教育現場を実体験し、社会人としてのマナーを含む国語科教員としての基本的技能を身に付けている。国語科の目標・内容・方法を理解し、国語科教員としての資質を身に付けている。国語学を通史的に概観し言語文化の変遷について説明ができる。日本文学・漢文学の基礎的事項への理解を深めるとともに、書道実技の能力を高めている。学校教育における食育について理解している。
	後期	教育に関する基礎的な知識(教育社会学概念、道徳教育の理論と実践、総合的な学習の時間の内容と方法など)を理解している。国語科教材の分析方法や教材開発の方法を身に付けている。国語学を通史的に概観し、地域差を含む言語文化の多様性について説明ができる。日本文学・漢文学の基礎的な技能として、テキストを深く読み解き講読する技術を身に付けている。書道実技の能力を高めるとともに書道文化を理解している。社会におけるウェルビーイングの実現や生涯にわたって学び続けることの意義について説明することができる。
3年次	前期	学校現場で求められる知識(教育課程の意義や編成方法、特別活動の目標や指導方法、生徒指導や進路指導の方法、教育経営の意義や方法など)を理解している。中学校における教育実習を通して、国語科教員としての教科指導・生徒指導における実践力を身に付けている。国語科の専門的事項への深い理解と結び付けた教材分析の技術を身に付けている。国語学・日本文学・漢文学に関する課題発見や探究の能力を高めプレゼンテーションを行う技術を身に付けている。学校防災や図書館の利活用といった学校現場での専門的な知識について理解している。
	後期	いじめや不登校問題の対応に資する教育相談の基礎的な技術を身に付けている。中学校での教育実習を踏まえて、国語科での特色ある授業づくりとそのための学習指導案の作成ができる。日本文学・漢文学での探究的な学びを通して、伝統的な言語文化を理解したり分析したりする力を身に付けている。地域の教育政策について関心を持ち理解を深めることができる。
4年次	前期	国語学・日本文学・漢文学の発展的な講義を通して伝統的な言語文化を自ら深く理解しようとする態度や技術を身に付けるとともに、国語科教員として求められる教科内容の専門性をより一層高めることができる。
	後期	教職実践演習を通して、自己の教職への適性を省みたり不足している知識や技能を身に付けたりするといった「学び続ける教師」としての素地を確認し、そのための技術を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職論		言語文化基礎論	日本国憲法		
		教育原論			英語 I (コミュニケーション英語)		
					スポーツセミナー		
					データ解析基礎		
	後期	発達心理学	国語学概論				
		特別支援教育総論	日本文学概論 I				
2年次	前期	教育方法・技術 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	国語学演習 I				
		教育実践基礎実習 (中・高)	日本文学概論 II	学校・地域における食育			
		国語科教育法	漢文学概論				
			書道実技 I				
	後期	道徳教育の理論と実践	国語学演習 II	地域社会とウェルビーイング			
		総合的な学習の時間論	日本文学講読	生涯学習論			
		教育社会学	漢文学講読				
		国語の教材分析A	書道実技 II				
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				教育臨床体験 (介護等体験)	
	3年次	前期	教育課程編成論	国語学講義	教員になるための学校防災		
特別活動論			日本文学演習 I	読書と豊かな人間性			
生徒指導・進路指導			漢文学演習 I				
教育実践実習B							
教育経営学							
国語の教材分析B							
後期		教育相談	日本文学演習 II	地域社会の教育計画			
		国語科実践演習	漢文学演習 II				
集中		教育実践実習事前・事後指導(中・高)					
4年次		前期		国語学特別講義			
				日本文学特別講義			
			漢文学特別講義				
	後期	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（社会））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養を身につける。例えば日本国憲法の基本理念を理解し、データサイエンスの基礎的な知識や情報モラルを身につける。基礎的な英語力と、健康およびスポーツについて理解を深める。教職論および教育原論を通して、教育および教職の意義と本質、教員に必要な資質能力を理解する。自己の教師像を明確にするとともに、教育観を身に付け、教職への適性を理解できる。
	後期	心身の発達過程と特徴を理解し、各段階に応じた学習指導ができるための前提となる知識を身につける。教科に関する基礎的な知識として、例えば、地理学的な観点を通して思考するための基礎を身につけ、その観点から人間社会の事象を理解する。日本の歴史について、文化史的な観点から理解することができる。社会学の基本を身につけることで、「社会」という事象を知識の対象とする意義を理解する。
2年次	前期	教育方法の理解のために、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を身につける。社会科教育の現状と課題について理解し、中学校学習指導要領解説における目標の意味や内容を理解する。中学校社会科の学習指導案の作成や具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識として、日本史の基礎や、地理学的な野外観察の方法を理解できる。政治過程の理解や国際法の理解、男女共同参画社会への理解を深める。
	後期	教職に関する基礎的な知識（例えば教育社会学の概念や、道徳教育のあり方）を理解できる。社会科学学習指導のための知識と技能（中学校学習指導要領解説社会科編のうち、特に公民分野に関しては基本的な内容を、地理歴史分野に関しては教材分析に踏み込んだ内容）を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識（例えば、外国史、経済学、倫理学の分野）を習得する。
3年次	前期	教育課程の意義や編成方法、特別活動の目標や指導方法についての知識が身につく。生徒指導や進路指導の方法、教育経営の意義について理解する。中学校学習指導要領解説社会科編のうち、公民分野に関して教材分析に踏み込んだ内容を理解し、授業設計の力を身につける。中学校における教育実習を通して、中学校社会科教員としての教科指導や生徒指導における実践力を身につける。教科に関する知識、例えば内陸アジアの歴史を理解し、国際政治についての幅広い知識を身につける。また、日本史史料を読み解く力、倫理学の基本文献を読解する力を習得する。
	後期	教育相談の基礎的な理論と技術を習得し、学校における相談活動で対象となる問題などを理解する。現場の事例を学習することで、課題解決と予防につながる支援方法を説明できるようになる。地域社会の教育計画を学ぶことで、地域の教育政策における課題や目標に関心を持ち、理解を深める。教科に関する知識と技能を深める。例えば哲学・倫理学の文献を深く読解する力が身につく。
4年次	前期	卒業研究を通して、これまでの学修成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教員になるために必要と考える専門科目を履修し、さらに深い専門的知識と技能を身につける（例えばマクロ経済学）。
	後期	卒業研究を通して、これまでの学修成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教職実践演習を通して、自己の教職への適性を再確認するとともに、教員になるうえで不足している知識と技能を補う。

様式第7号ウ(教諭)

＜学校教育教員養成課程＞(認定課程:中一種免(社会))

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	
		教育原論			英語 I (コミュニケーション英語)	
					スポーツセミナー	
	後期				データ解析基礎	
		発達心理学	日本文化史概論			
		特別支援教育総論	人文地理学概論			
2年次	前期		日本史概論	学校・地域における食育		
		教育方法・技術(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)				
		教育実践基礎実習(中・高)	地理学野外実習A			
		社会・地歴科教育法	環境動態概論			
			政治過程論			
			国際法1			
	後期		男女共同参画社会と教育			
		道徳教育の理論と実践	日本史講読	地域社会とウェルビーイング		
		総合的な学習の時間論	東アジア史概論	生涯学習論		
		教育社会学	ヨーロッパ史概論			
		社会の教材分析A	地誌学特論			
		社会・公民科教育法	社会と学力			
	集中		経済学概論			
			哲学・倫理学概論			
		教育実践実習事前・事後指導(中・高)				教育臨床体験(介護等体験)
3年次	前期	教育課程編成論	日本史演習	教員になるための学校防災		
		特別活動論	内陸アジア史概論			
		生徒指導・進路指導	グローバル・ガバナンス論1			
		教育経営学	社会と文化			
		教育実践実習B	哲学・倫理学基礎演習			
		社会の教材分析B				
	後期	教育相談	哲学・倫理学演習A	地域社会の教育計画		
	集中		教育実践実習事前・事後指導(中・高)			
4年次	前期		マクロ経済学1			
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（数学））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養（日本国憲法の基本的概念、コンピュータに関する基本的な知識と技能、基礎的な英語力など）を身につける。教育の本質（哲学と歴史）、教員の社会的役割、職務、倫理及び研修制度などを理解し、教育観を身につけるとともに自己の教職への適性を理解できる。教科に関する基礎的な知識（代数学の基礎）を理解できる。
	後期	教科に関する基礎的な知識（幾何学・解析学の基礎など）を理解できる。特別支援教育についてその現状と方法を学ぶ。発表や討議活動等の言語活動（英語を含む）を通して、コミュニケーションスキルを身につける。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識（学習の心理学的メカニズム、教育方法・技術の基礎概念など）を理解できる。数学科教育の現状と課題について理解し、中学校学習指導要領における目標の意味や内容を理解する。その上で、中学校数学の学習指導案の作成や具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（確率・統計学の基礎やデータサイエンス、教員になるために必要なプログラミングなど）を理解できる。
	後期	教職に関する基礎的な知識（教育社会学の概念、道徳指導のあり方など）を理解できる。中学校学習指導要領解説数学編に基づいて、新しい数学科教育の理論を理解し、これまでの学習をもとに、中学校数学の具体的な教材を分析し、開発することができる。教科に関する基礎的な知識と技能（代数学の発展的な内容やデータ分析の基礎など）を習得できる。教育実習に向けての基礎的な素養を確認する。
3年次	前期	教職に関する知識（教育課程の意義と課題、特別活動の実践上の課題など）を理解できるとともに、指導計画・指導案を立案できる。これまでの学習をもとに、中学校数学の具体的な教材をさらに広い領域に渡って分析し、開発することができる。教科に関する知識と技能（代数学や統計学の発展的な内容など）を理解できる。
	後期	教職に関する知識と技能（カウンセリングに関する知識と技能、学校における相談活動で対象となる問題など）を理解できる。数科学習指導の基礎的な知識と技能（中学校学習指導要領解説数学編の内容）を理解し、授業設計ができる。教科に関する知識と技能（幾何学や解析学の発展的な内容など）を説明できる。
4年次	前期	教育実習を通して、数学教員としての教科指導・生徒指導における実践力を身につける。これまでの授業及び教育実習を通して、教育に対する使命感・情熱を持ち、教員としての職務を理解し、中学校数学のあらゆる教育内容について主体的に指導実践できる。生徒の状況に応じて、適切な教材・教具を選定し、授業計画や学習形態を工夫することができる。
	後期	卒業研究を通して、これまでの学習成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教職実践演習を通じて、自己の教職への適性を再確認するとともに、教員になるための不足している知識と技能を身につける。数学に関する豊かな識見を基盤として数学科教育に活かすことができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（数学））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論	代数学概論		日本国憲法	
		教育原論			スポーツセミナー	
					英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
				データ解析基礎		
	後期	特別支援教育総論	解析学概論			
	発達心理学	幾何学概論				
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	確率・統計学概論			
		数学科教育法	データサイエンス入門			
		教育実践基礎実習（中・高）	教員になるためのプログラミング入門			
	後期	道徳教育の理論と実践	データ分析入門	地域社会とウェルビーイング		
		総合的な学習の時間論	データ構造とアルゴリズム			
		数学の教材分析A	代数入門			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）
3年次	前期	教育課程編成論	数理統計学	教員になるための学校防災		
		特別活動論	コンピュータアーキテクチャ			
		生徒指導・進路指導				
		教育経営学				
		数学の教材分析B				
	後期	教育相談	多変量解析	地域社会の教育計画		
		数学科実践演習	離散幾何			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				
4年次	前期	教育実践実習B				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（理科））

（1）各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養（日本国憲法の基本理念、情報倫理に関する基本的な知識と技能、健康とスポーツ科学、基礎的な英語力など）を身につける。教育の本質（哲学と歴史）、教員の社会的役割・職務、倫理及び研修制度などを踏まえて、自己の教職への適性を理解できる。
	後期	教職に関する基礎的な知識（児童の心身の発達過程と特徴、特別支援教育についてその現状と方法）を理解する。教科に関する基本的な知識（地球を構成する岩石や鉱物の分類とそれらの成因、地球システム、地球史、海洋環境など）を理解できる。発表や討議活動等の言語活動（英語を含む）を通して、コミュニケーションスキルを身につける。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識（教育方法・技術の基礎概念、児童の学習に対する心理的な課題など）を理解できる。理科教育の現状と課題について学び、中学校学習指導要領における目標の意味や内容を理解する。その上で、中学校理科の学習指導案の作成や具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、古典力学を中心とした物理学や、無機化学・有機化学、生物学の基礎的な知識、地形図や地質図の読解、岩石薄片作成や偏光顕微鏡の操作・観察法、生態学や無機化学、地球環境に関する専門的な知識）を理解できる。中学校教育実習に向けた心構えを身につける。
	後期	教職に関する基礎的な知識（教育社会学の概念、道徳指導のあり方、総合的な学習の時間の指導のあり方など）を理解できる。理科学習指導の基礎的な知識と技能（小学校における理科教育の連続性を踏まえつつ、中学校学習指導要領解説理科編のうち物理学、化学分野）を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、電磁気学、波動などの基礎的な物理学実験と、無機化学、有機化学の操作を含む化学実験、物理現象の数学的な取り扱いと生物学的思考力を育成する演習）を身につける。教育実習に向けての基礎的な素養を確認する。ウェルビーイング増進の必要性を理解し、地域活動との関わりを生かした教育を行うための具体的な方策を説明できる。
3年次	前期	教職に関する知識（教育課程の意義と課題、学校経営上の課題、特別活動の実践上の課題、進路指導や生徒指導で対象となる問題など）を理解できるとともに、それらを踏まえて指導計画・指導案を立案できる。理科学習指導の基礎的な知識と技能（小学校における理科教育の連続性を踏まえつつ、中学校学習指導要領解説理科編のうち生物学、地学分野）を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、無機化学と岩石学に関する演習、顕微鏡を用いた植物細胞や動物細胞の観察・実験、STEAM教育に対する課題と実践に関する知識、熱力学と地質・古生物学に関する専門的な知識）を習得できる。教員として子供と自身の安全を守るための学校防災の理論を理解する。中学校教育実習において、教員として必要な実践力と活用力、また、教科の指導力を向上させる。
	後期	教職に関する知識（学校カウンセリングに関する基礎的な知識と技能、学校における相談活動で対象となる問題など）を理解できる。中学校学習指導要領解説理科編に基づいて、新しい理科教育の理論を理解し、これまでの授業や実習の経験をもとに、中学校理科の具体的な教材を分析し、開発することができる。教科に関する基礎的な知識と技能（中等理科実験での実験指導に関する力）を習得する。山形県の地域社会の実態を把握した上で、教育を計画する力を身につける。
4年次	前期	小学校・高等学校における副免許状に関する教育実習において、理科教員としての教科指導・生徒指導における実践力を身につける。これまでの授業及び教育実習を通して、教育に対する使命感・情熱を持ち、教員としての職務を理解し、理科のあらゆる教育内容について主体的に指導実践できる。生徒の状況に応じて、適切な教材・教具・治具を選定し、授業計画や学習形態を工夫することができる。
	後期	卒業研究を通して、これまでの学習成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。履修カルテに基づいて、自己の教職への適性を再確認するとともに、教員になるための不足している知識と技能を身につける。自然科学に関する豊かな識見を基盤として理科教育に生かすことができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職論			日本国憲法		
		教育原論			スポーツセミナー		
					英語Ⅰ（コミュニケーション英語）		
				データ解析基礎			
	後期	発達心理学	地学概論				
	特別支援教育総論						
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	物理学概論				
		学習心理学	化学概論				
		理科教育法	生物学概論				
		教育実践基礎実習（中・高）	地学実験				
			生態学Ⅰ				
			無機化学Ⅰ				
			地球環境史論				
	後期	教育社会学	物理学演習	地域社会とウェルビーイング		初等教科教育法Ⅰ（理科）	
		道德教育の理論と実践	生物学演習				
		総合的な学習の時間論	物理学実験				
		理科の教材分析A	化学実験				
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）	
	3年次	前期	教育課程編成論	化学演習	教員になるための学校防災		初等教科教育法Ⅱ（理科）
教育経営学			地学演習				
特別活動論			生物学実験				
生徒指導・進路指導			STEAM教育論				
理科の教材分析B			熱力学				
教育実践実習B			地質・古生物学Ⅰ				
後期		教育相談	中等理科実験	地域社会の教育計画			
		理科実践演習					
集中		教育実践実習事前・事後指導（中・高）					
4年次		前期					
		後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（音楽））

(1) 各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につくために必要とされる憲法と人権尊重、データサイエンスに関する基礎的な知識と技能、健康とスポーツ科学、基礎的な英語能力などの教養およびファシリテーションの基礎的な技術を身につけている。教職の意義、中学校音楽科教員に求められる資質能力、多様な教育理念を踏まえて、自己の教育観を明確にする。西洋芸術音楽等世界の諸地域の音楽への理解を通じて、社会の中での音楽を考察することができる。ソルフェージュの学修を通じて、豊かな音楽表現へとつなげられる基礎的な能力を身につけている。
	後期	青年期の心理的特性を踏まえた学習活動や指導法について理解している。特別の支援を必要とする子どもの障害の特性を踏まえた個別の指導計画や教育支援計画を作成することができる。表現や鑑賞の土台となる音楽理論を理解し、楽曲の構造を把握することができる。管弦打楽器及び鍵盤楽器の構造・機能を理解し、基礎的な演奏技術を身につけている。発声法と呼吸法の実践的な学修を通じて、声のメカニズムを理解し声楽の基礎技術を身につけている。
2年次	前期	主体的対話的で深い学びの実現に必要な基礎的な指導技術と情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を身につけている。地域社会の課題を理解しながら、食育のあり方を計画することができる。中学校音楽科の指導に関する基礎的な事項を理解し、指導法を考案・実践することができる。基礎的な和声学の学修を通じて、楽曲を分析することができる。管弦打楽器及び鍵盤楽器及び声楽の演奏技術を高めるとともに、時代や様式に沿った音楽表現をすることができる。基礎的な声楽技術を活用し、音楽を集団で表現することができる。
	後期	昨今の教育現象を理解し、ウェルビーイング増進につながる地域連携教育を行うために必要とされるコーディネートとファシリテーションの実践的な技術について説明できる。総合的な学習の時間の指導場面を想定しながら探究的な学習を実践するための指導計画を作成することができる。道徳教育について理解を深めた上で、道徳科の学習指導案を作成できる。対位法の学修を生かした楽曲分析を行うことができる。音楽科教材の諸要素を分析し、学習指導法を考案、模擬授業の中で実践することができる。声楽によるアンサンブル音楽を豊かに表現することができる。
3年次	前期	学習指導要領改定の変遷とカリキュラム・マネジメントによる授業改善の意義及び評価方法を理解し、説明することができる。地域における適切な学校の防災管理と防災教育の方法について説明できる。生徒指導・進路指導における適切な指導法を立案・検討できる。教育実習の場で生徒や教育の実態を把握した上で、中学校音楽科教員として適切な学習指導案を作成し、授業実践を行うことができる。合奏活動及び合唱活動に係る教材分析をもとに実践的な指導を行うことができる。指揮法の基礎的な技術を身につけ、集団による音楽を充実させることができる。日本の伝統音楽の構造を理解しながら、声楽・器楽ともに表現することができる。
	後期	学校教育における課題を理解し、スクールカウンセリングの基礎的な理論と技法に基づいた適切な対応ができる。自身の教育実習を省察し、音楽科教育の今日的課題と生徒の実態に即した指導のあり方を検討し、実習での課題解決につながる教材分析と模擬授業を行うことができる。音楽活動におけるコミュニケーション能力を生かしながら、声や様々な楽器によるアンサンブル音楽を豊かに表現することができる。
4年次	前期	これまでの授業及び教育実習を通して、中学校音楽科教員としての職務を理解し、音楽の深い専門的知識と技能を生かした適切な指導案を作成することができる。生徒の実態に応じた事後検討から授業実践を改善し、指導法や授業計画を工夫することができる。
	後期	教科指導及び生徒理解・学級経営の実践力を身につけ、現在の教育や生徒の実態に即した課題を発見し、解決への方策を考案することができる。音楽科に関する専門的な知識・技能を高めながら、子どもの発達段階・学習課題に合わせた教科指導の方針を説明できる。教員として使命・服務・倫理を自覚し、地域社会における音楽文化振興や生涯学習への課題を認識しながら、地域との協働作業を円滑に進められるようなコミュニケーションができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（音楽））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論	音楽史概論		日本国憲法	
		教育原論	ソルフェージュ		スポーツセミナー	
					英語 I (コミュニケーション英語)	
	後期				データ解析基礎	
		特別支援教育総論	音楽理論			
		発達心理学	声楽A			
2年次	前期	音楽科教育法	声楽B	学校・地域における食育		
		教育方法・技術(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	器楽B			
		教育実践基礎実習(中・高)	作曲法A			
			合唱基礎			
	後期	音楽の教材分析A	作曲法B	地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学	合唱応用			
		総合的な学習の時間論				
		道徳教育の理論と実践				
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				教育臨床体験(介護等体験)
	3年次	前期	音楽の教材分析B	日本音楽演習(器楽)	教員になるための学校防災	
教育課程編成論			日本音楽演習(歌唱)			
特別活動論			アンサンブル基礎			
生徒指導・進路指導			指揮法			
教育実践実習B						
後期		音楽科実践演習	アンサンブル応用			
		教育相談				
		集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)			
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（美術））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想について理解している。平面造形および立体造形の基礎知識と技術を体得し、造形の美しさや材料道具との関係の基本を把握し、造形芸術の史の変遷と基礎的概念や知識を獲得している。教職につくために必要とされる憲法と人権尊重、データサイエンスに関する基礎的な知識と技能、健康とスポーツ科学の理念、基礎的な英語能力などの教養およびファシリテーションの基礎的概念を身につけている。
	後期	生徒の心身の発達過程と特徴を理解し、発達を踏まえた学習指導の基礎となる考え方や、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性を理解している。彫刻、デザインの各表現に関する基礎的な演習を通して、各表現の特徴について説明することができる。
2年次	前期	主体的・対話的で深い学びの実現に必要な基礎的な指導技術と情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を身につけている。絵画や工芸領域の基礎的な演習を通してそれぞれの領域の表現的特徴について説明することができる。彫刻・デザインの表現演習や日本美術史の鑑賞に関する講義を通して、表現技術と鑑賞能力を高め、教材化に向けた主題の設定方法について理解できるようになる。美術科の目標、指導計画、評価の基本事項を理解し、題材・教材の分析を通して、教材研究および授業づくりの基本的な能力を身につけている。生徒指導・進路指導に関する基本的な考え方や方法を把握している。1週間の教育実習を通して生徒と関わり、教員としての基礎的な能力を身につけている。
	後期	総合的な学習の時間の指導場面を想定しながら探求的な学習を実践するための指導計画を作成することができる。道徳教育の理念と教育方法について理解し、指導計画を作成することができる。今日的な教育現象を教育社会学の概念を用いて理解している。絵画と彫刻、デザインに関する表現や応用の演習を通して、表現技術と鑑賞能力をより一層高め、美術科の目標を達成するための学習指導と評価に関する知識を踏まえて模擬授業を行うことができる。生涯学習社会における造形美術が持つ役割と、ウェルビーイング増進の必要性を理解し、地域社会のウェルビーイング増進につながる地域活動との関わりを生かした教育を行うために必要とされるコーディネートとファシリテーションの実践的な技術について説明できる。
3年次	前期	学習指導要領改訂の変遷と授業改善の意義及び評価方法を理解し説明することができる。初等中等教育を支える制度や学校の経営について基本的な仕組み、実態と今日的な課題を理解している。特別活動の指導法について理解できる。造形表現の諸領域を跨いだ総合的な表現演習を通して表現能力の向上と同時に、美術科の授業内容や要件の理解を深め、具体的な題材・教材を設定した学習指導案を作成し、模擬授業と授業改善の検討を行うことができる。地域の地理的条件を踏まえた適切な学校の防災管理と防災教育の方法について説明できる。2週間の教育実習において生徒の実態を把握し、授業実践を通して教員として必要な実践力を高めると同時に、教科に必要な指導力を考察することができる。
	後期	学校カウンセリングの基礎的な理論と技法を踏まえて実際の学校現場の事例について課題解決策と予防につながる支援方法を説明できる。絵画表現の応用的演習を通して、制作者・教育者としての審美眼・鑑識眼を向上することができる。教育実習を振り返り、強化すべき観点を抽出し、指導の改善方法を考察することができる。山形県の教育課題を踏まえながら山形県教育振興計画が目標とするウェルビーイングを目指した学級経営案を作成し、その効果について説明できる。
4年次	前期	中学校他教科や小学校あるいは特別支援学校における副免許状に関わる教育実習の場などにおいて、大学で学んだ内容を活かして児童・生徒と関わり、適切な学習指導案を作成し授業実践を行なった後、事後検討を経て授業改善することができる。地域における多様な学びを支援する学校内外の組織・団体等の支援スタッフと教員との連携、フリースクール等の学校外の組織・団体との連携・協働のあり方に対する自らの具体的な見通しについて説明できる。
	後期	教員としての使命感と情熱を持ち、教員としての職責と義務を自覚し、個々の事象に応じた適切な判断と行動をとることができる。また、生徒の関心や地域資源を積極的に活用し、授業計画や学習形態を工夫することができる。卒業研究として3年間の学習成果を総合し、表現技術ならびに鑑賞能力と地域社会における芸術課題を通して得た課題解決の経験を応用・活用することで、実践的な教材開発やプログラムを立案し、実践・検証することができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（美術））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	造形基礎演習A		日本国憲法	
		教職論	造形基礎演習B		スポーツセミナー	
			造形史概説		英語 I（コミュニケーション英語）	
	後期				データ解析基礎	
		発達心理学	彫刻基礎			
		特別支援教育総論	デザイン基礎			
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	絵画基礎			
		美術科教育法	彫刻表現演習			
		美術の教材分析A	デザイン表現演習			
		教育実践基礎実習（中・高）	造形史特論			
		生徒指導・進路指導	工芸領域			
			日本美術史概説			
	後期	総合的な学習の時間論	絵画表現演習	地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学	彫刻応用演習			
		道徳教育の理論と実践	彫刻論			
			デザイン応用演習			
			生涯学習と造形			
集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）	
3年次	前期	教育課程編成論	造形表現総合演習	教員になるための学校防災		
		特別活動論				
		美術科実践演習				
		美術の教材分析B				
		教育経営学				
		教育実践実習B				
	後期	教育相談	絵画応用演習	地域社会の教育計画		
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（保健体育））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職に就く上で必要な幅広い教養（日本国憲法の基本的概念、情報機器に関する基本的な知識と技能、基礎的な英語力など）を身につける。教育の意義や本質を理解するとともに自己の教職への適性を理解できる。健康・スポーツに関する基礎的な知識や生涯スポーツの意義を理解し、また、保健体育の体育領域（体づくり運動・武道・ダンス）に関する技能や応急処置の方法と実践能力を身につける。
	後期	教職に関する基礎的な知識（加齢に伴う人間の発育・発達に関する心理学的知識）を理解できる。体づくり運動や地域特性に応じた冬季スポーツ（スキー）の基本的な技能、トレーニング・応急処置の方法と実践能力を身につける。発表や闘技活動等の言語活動（英語を含む）を通して、コミュニケーションスキルを身につける。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識（教育方法・技術の基礎概念や学習者の心理的特徴など）を理解できる。保健体育科教育の現状と課題について理解し、中学校学習指導要領における目標の意味や内容を理解する。その上で1週間の教育実習を通して教員に必要な基礎的資質（知識・技能・態度）を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、体育・スポーツの実践を支える生理学・社会学・心理学的な知見、また、器械運動や陸上競技、水泳の技能など）を身につける。地域社会の課題を理解しながら、食育のあり方を計画することができる。
	後期	教職に関する基礎的な知識（道徳教育や総合的な学習の時間の基礎理論、教育社会学の概念、地域連携教育によるウェルビーイング増進の実践論など）を理解できる。保健体育科の意義や学習指導の基礎的な知識と技能を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、学校保健や公衆衛生及びスポーツとスポーツ実践者の在り方についての力学的・栄養学的観点からの知見、また、球技（ゴール型・ネット型）の技能）を習得できる。
3年次	前期	教職に関する知識（教育経営のあり方、生徒指導・進路指導の考え方や学校防災のあり方など）を理解できるとともに、指導計画・指導案を立案できる。保健体育科の教材について幅広い知見を獲得し、3週間の教育実習を通して具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、体育とスポーツにおける文化論・コーチング学的な観点からの知見）を身につける。
	後期	教職に関する知識と技能（地域社会の教育計画、カウンセリングに関する知識と技能など）を理解できる。教科に関する基礎的な知識と技能（球技（ゴール型・ベースボール型）の技能）を習得できる。中学校学習指導要領解説保健体育科編に基づいて、新しい保健体育科教育の理論を理解し、これまでの授業や実習の経験をもとに、中学校保健体育科の具体的な教材を分析し、開発することができる。
4年次	前期	卒業研究への取り組みをとおして、保健体育・スポーツの現状や学的な蓄積についての認識を深め、現実の社会において生起する問題・課題を発見することができる。また、そうした問題・課題についてみずから主体的に取り組み、かつ解決していくための態度と思考力を身につける。
	後期	教職実践演習を通じて、自己の教職への適正を再確認するとともに教員になるための不足している知識と技能を身につける。教員としての使命感や情熱を認識し、その職責や義務を再確認するとともに、これまでの講義および教育実習をとおして身につけてきた資質能力をもとに、個々の事象に応じた適切な行動をとることができる。生徒の状況に応じて、授業計画や学習形態を工夫することができる。また、卒業研究を通して体育・スポーツに関する科学的な方法を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（保健体育））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論	体育スポーツ実技(武道・ダンス)		日本国憲法	
		教育原論	保健体育入門A		スポーツセミナー	
					英語 I (コミュニケーション英語)	
	後期	特別支援教育総論	保健体育入門B		データ解析基礎	
		発達心理学				
	集中		体育スポーツ実技(冬季スポーツ)			
2年次	前期	保健体育科教育法	スポーツ社会学	学校・地域における食育		
		教育方法・技術(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	スポーツ生理学			
			スポーツ心理学			
			体育スポーツ実技(陸上競技・器械運動)			
	集中		体育スポーツ実技(水泳)			
	後期	保健体育の教材分析A	スポーツバイオメカニクス	地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学	スポーツ栄養学			
		総合的な学習の時間論	衛生・公衆衛生学			
道德教育の理論と実践		体育スポーツ実技(球技A)				
集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				教育臨床体験(介護等体験)	
3年次	前期	保健体育の教材分析B	学校保健	教員になるための学校防災		
		教育課程編成論	スポーツ文化論			
		特別活動論	コーチング論			
		生徒指導・進路指導				
		教育実践実習B				
	後期	保健体育科実践演習	体育スポーツ実技(球技B)			
		教育相談				
集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)					
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（英語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につくために必要とされる憲法と人権尊重、データサイエンスに関する基礎的な知識と技能、健康とスポーツ科学、基礎的な英語運用能力などの教養およびファシリテーションの基礎的技術を身につけている。教職の意義、教員に求められる資質能力、多様な教育理念を踏まえて、なりたい教師像を明確にした上で4年間の学習目標を立てることができる。英語科教員として必要な英語学分野の基礎的な知識と英会話能力を身につけている。
	後期	生徒の心身の発達過程と特徴を理解し、発達を踏まえた学習指導の基礎となる考え方を理解している。また、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性を踏まえた個別の指導計画や教育支援計画を作成することができる。英語文学の基礎的な知識と、より高度な英会話能力を身につけている。
2年次	前期	主体的対話的で深い学びの実現に必要な基礎的な指導技術と情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を身につけている。学習者の心理的メカニズムを理解し、教授学習の場面で活用できる。教育実習へ向けて、実践に関する基礎的知識を習得する。英語科教員として基礎的な指導法について理解する。第二言語習得論や異文化理解に関する基礎的な知識を身につけるとともに、英語学や英語文学のより専門的な内容に関する知識を獲得している。また、英語で文章を書く力を身につけている。
	後期	道徳教育の理論的な知識を身につけ、実際の指導に活かすことができる。総合的な学習の時間の指導場面を想定しながら探求的な学習を実践するための指導計画を作成することができる。ウェルビーイング増進の必要性を理解し、地域社会のウェルビーイング増進につながる地域活動との関わりを生かした教育を行うために必要とされるコーディネートとファシリテーションの実践的な技術について説明できる。教育や学校を社会との関係の中で考え、よりよい在り方を提案できる。教育実習へ向けて、実践に関する基礎知識を獲得している。英語の教材を理解して活用する基礎的な知識と技術を身につけているとともに、英語学、英語文学、第二言語習得論、異文化理解の専門的な内容について理解を深めている。
3年次	前期	学習指導要領改訂の変遷とカリキュラム・マネジメントによる授業改善の意義及び評価方法を理解し、説明することができる。特別課題を実践する上で必要な知識や、適切な生徒指導・進路指導を行うための知識と技術を身につけている。地域の地理的条件を踏まえた適切な学校の防災管理と防災教育の方法について説明できる。教育実習の場で生徒との関わりを通して生徒の実態を把握し、それを踏まえて適切な学習指導案を作成し、授業実践を行うことができる。教材を活用するためのより高度な知識と技術を身につけている。英語学と英語文学のさらに専門的な内容について理解を深めている。
	後期	学校カウンセリングの基礎的な理論と技法を踏まえて実際の学校現場の事例について課題解決策と予防につながる支援方法を説明できる。山形県の教育課題を踏まえながら山形県教育振興計画が目標とするウェルビーイングを目指してチャレンジする人間像に向けて生徒を育てるための学級経営案を作成し、その効果について説明できる。異文化理解に関する見識をさらに深めているとともに、英語科の授業を実践するための総合的な知識や技術を身につけている。教育実習を通して、教員としての職責を自覚し、教師としての基礎を身につけている。
4年次	前期	中学校英語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を遂行するために、計画を立てて取り組んでいくことができている。英語文学の専門的な内容についてよりいっそう見識を深めている。
	後期	教員としての倫理・服務・使命感について当事者意識を持った説明ができる。履修カルテに基づいて適切な目標と履修計画を設定、実行し、目標を達成することができる。教科指導及び学級経営・生徒指導について最低限度の実践力を身につけると共に課題を自覚し、克服に向けた方策を説明できる。中学校英語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を遂行し、論文にまとめることができている。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：中一種免（英語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	英語学概論		日本国憲法	
		教職論	英語表現(英会話)基礎		スポーツセミナー	
					英語Ⅰ(コミュニケーション英語)	
	後期				データ解析基礎	
		発達心理学	英語文学概論			
		特別支援教育総論	英語表現(英会話)発展			
2年次	前期	教育方法・技術(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	英語学演習A			
		学習心理学	第二言語習得論概論			
		教育実践基礎実習(中・高)	英語文学演習A			
		英語科教育法	英語表現(英作文)			
			異文化コミュニケーション概論			
	後期	道徳教育の理論と実践	英語学演習B	地域社会とウェルビーイング		
		総合的な学習の時間論	第二言語習得論演習			
		教育社会学	英語文学演習B			
		英語の教材分析A	異文化コミュニケーション特論			
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				教育臨床体験(介護等体験)
3年次	前期	教育課程編成論	英語学演習C	教員になるための学校防災		
		特別活動論	現代英語文学論			
		生徒指導・進路指導				
		教育実践実習B				
		英語の教材分析B				
	後期	教育相談	異文化コミュニケーション演習	地域社会の教育計画		
		英語科実践演習				
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				
	4年次	前期		児童英語文学論		
後期		教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（国語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の本質を理解し、教員としての基本的な態度、明確な教育観が身につけている。教職において求められる基本的で幅広い教養としての憲法の基本的知識・法学的施行、スポーツへの理解、基礎的な英語力を身に付けている。GIGAスクール構想に基づくICTの積極的な活用が求められる学校現場に必要なデータサイエンスの基礎的な操作が行える。国語科の教育内容の核となる言語や文学といった言語文化の基礎的な素養を身に付けている。
	後期	少年期・青年期の精神的な発達などを理解している。また「誰一人取り残さない教育」の実現に不可欠な特別支援教育やインクルーシブ教育についての現状と方法を理解している。多文化社会における円滑なコミュニケーションスキルとしての発表技術や討議能力(英語を含む)を身に付けている。国語学・日本文学の基礎的事項について理解している。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識である教育方法や技術の基礎概念、情報通信技術を活用した教育の理論や方法について理解している。教育実践基礎実習を通して教育現場を実体験し、社会人としてのマナーを含む国語科教員としての基本的技能を身に付けている。国語科の目標・内容・方法を理解し、国語科教員としての資質を身に付けている。国語学を通史的に概観し言語文化の変遷について説明することができる。日本文学・漢文学の基礎的事項への理解を深めている。
	後期	教育に関する基礎的な知識(教育社会学概念、総合的な学習の時間の内容と方法など)を理解している。国語科教材の分析方法や教材開発の方法を身に付けている。国語学を通史的に概観し、地域差を含む言語文化の多様性について説明することができる。日本文学・漢文学の基礎的な技能として、テキストを深く読み解き講読する技術を身に付けている。社会におけるウェルビーイングの実現や生涯にわたって学び続けることの意義について説明することができる。道徳教育の理論と実践について理解している。
3年次	前期	学校現場で求められる知識(教育課程の意義や編成方法、特別活動の目標や指導方法、生徒指導や進路指導の方法、教育経営の意義や方法など)を理解している。教育実習を通して、国語科教員としての教科指導・生徒指導における実践力を身に付けている。国語科の専門的事項への深い理解と結び付けた教材分析の技術を身に付けている。国語学・日本文学・漢文学に関する課題発見や探究の能力を高めプレゼンテーションを行う技術を身に付けている。学校防災や図書館の利活用といった学校現場での専門的な知識について理解している。
	後期	いじめや不登校問題の対応に資する教育相談の基礎的な技術を身に付けている。教育実習を踏まえて、国語科での特色ある授業づくりとそのための学習指導案の作成ができる。日本文学・漢文学での探究的な学びを通して、伝統的な言語文化を理解したり分析したりする力を身に付けている。地域の教育政策について関心を持ち理解を深めることができる。
4年次	前期	国語学・日本文学・漢文学の発展的な講義を通して伝統的な言語文化を自ら深く理解しようとする態度や技術を身に付けるとともに、国語科教員として求められる教科内容の専門性をより一層高めることができる。
	後期	教職実践演習を通して、自己の教職への適性を省みたり不足している知識や技能を身に付けたりするといった「学び続ける教師」としての素地を確認し、そのための技術を身に付ける。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（国語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論		言語文化基礎論	日本国憲法	
		教育原論			英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
					スポーツセミナー	
				データ解析基礎		
	後期	発達心理学	国語学概論			
	特別支援教育総論	日本文学概論Ⅰ				
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	国語学演習Ⅰ			
		教育実践基礎実習（中・高）	日本文学概論Ⅱ			
		国語科教育法	漢文学概論			
	後期	総合的な学習の時間論	国語学演習Ⅱ	地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学	日本文学講読	生涯学習論		
		国語の教材分析A	漢文学講読	道徳教育の理論と実践		
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）
3年次	前期	教育課程編成論	国語学講義	教員になるための学校防災		
		特別活動論	日本文学演習Ⅰ	読書と豊かな人間性		
		生徒指導・進路指導	漢文学演習Ⅰ			
		教育実践実習B				
		教育経営学				
		国語の教材分析B				
	後期	教育相談	日本文学演習Ⅱ	地域社会の教育計画		
		国語科実践演習	漢文学演習Ⅱ			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				
4年次	前期		国語学特別講義			
			日本文学特別講義			
			漢文学特別講義			
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（地理歴史））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養を身につける。例えば日本国憲法の基本理念を理解し、データサイエンスの基礎的な知識や情報モラルを身につける。基礎的な英語力と、健康およびスポーツについての理解を深める。教職論および教育原論を通して、教育および教職の意義と本質、教員に必要な資質能力を理解する。自己の教師像を明確にするとともに、教育観を身につけ、教職への適性を理解できる。
	後期	心身の発達過程と特徴を理解し、各段階に応じた学習指導ができるための前提となる知識を身につける。教科に関する基礎的な知識として、例えば、地理学的な観点を通して思考するための基礎を身につけ、その観点から人間社会の事象を理解する。日本の歴史について、文化史的な観点から理解を深め、政治史に限定されない広く多角的な観点からの歴史理解を身につける。
2年次	前期	教育方法の理解のために、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を身につける。社会科教育の現状と課題について理解し、高等学校学習指導要領解説地理歴史編における目標の意味や内容を理解する。地理歴史の学習指導案の作成や具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識として、日本史の基礎を総合的に把握しなおすとともに、一時代の専門的な観点からの理解(例えば古代史)へのアプローチの仕方も理解する。また、地理学的な野外観察の方法を理解できる。
	後期	教職に関する基礎的な知識(例えば教育社会学の概念や、道德教育のあり方)を理解できる。社会科学習指導のための知識と技能(高等学校学習指導要領解説地理歴史編に沿った、教材分析に踏み込んだ知識と技能)を理解し、授業設計ができる。教科に関する知識(例えば、外国史の基礎的な知識、日本史に関する専門的な知識、地理学に関する専門的な知識)を習得できる。
3年次	前期	教育課程の意義や編成方法、特別活動の目標や指導方法についての知識が身につく。生徒指導や進路指導の方法、教育経営の意義について理解できる。教育実習を通して、高等学校地理歴史分野の教員としての教科指導や生徒指導における実践力を身につける。学校防災についての知識が身につく。教科に関する知識、例えば内陸アジアの歴史を理解し、また、日本史史料を読み解く力が身につく。
	後期	教育相談の基礎的な理論と技術を習得し、学校における相談活動で対象となる問題などを理解することができる。現場の事例を学習することで、課題解決と予防につながる支援方法を説明できるようになる。地域社会の教育計画を学ぶことで、地域の教育政策における課題や目標に関心を持ち、理解を深めることができる。教科に関する知識と技能を深めることができる。
4年次	前期	卒業研究を通して、これまでの学修成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教員になるために必要と考える専門科目を履修し、さらに深い専門的知識と技能を身につける。
	後期	卒業研究を通して、これまでの学修成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教職実践演習を通して、自己の教職への適性を再確認するとともに、教員になるうえで不足している知識と技能を補う。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（地理歴史））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	
		教育原論			英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
					スポーツセミナー	
				データ解析基礎		
	後期	発達心理学	日本文化史概論			
		特別支援教育総論	人文地理学概論			
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	日本史概論	学校・地域における食育		
		教育実践基礎実習（中・高）	日本古代史概論			
		社会・地歴科教育法	地理学野外実習A			
			環境動態概論			
	後期	総合的な学習の時間論	日本史講読	地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学	東アジア史概論	生涯学習論		
		社会の教材分析A	ヨーロッパ史概論	道徳教育の理論と実践		
			地誌学特論			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）
	3年次	前期	教育課程編成論	日本史演習	教員になるための学校防災	
特別活動論			古文書学			
生徒指導・進路指導			日本近代史概論			
教育経営学			内陸アジア史概論			
教育実践実習B			地理学野外実習B			
後期		教育相談		地域社会の教育計画		
集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）					
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

〈学校教育教員養成課程〉(認定課程:高一種免(公民))

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養を身につける。例えば日本国憲法の基本理念を理解し、データサイエンスの基礎的な知識や情報モラルを身につける。基礎的な英語力と、健康およびスポーツについて理解を深める。教職論および教育原論を通して、教育および教職の意義と本質、教員に必要な資質能力を理解する。自己の教師像を明確にするとともに、教育観を身につけ、教職への適性を理解できる。教科に関する専門的な知識として、心理学の基本を理解し、人間の行動や思考を深く理解し、教育や支援の現場への応用につながるような知識を身につける。
	後期	心身の発達過程と特徴を理解し、各段階に応じた学習指導ができるための前提となる知識を身につける。特別の支援を必要とする児童・生徒の障害の特性を理解し、その特性を考慮した指導計画や教育支援計画の重要性を理解する。教科に関する基礎的な知識として、例えば、社会学の基本を身につけることで、「社会」という事象を知識の対象とする意義を理解する。
2年次	前期	教育方法の理解のために、情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を身につける。社会科教育の現状と課題について理解し、教科に関する基礎的な知識として、政治過程の理解や国際法の理解を通して、人間社会の制度的な側面を理解する。男女共同参画社会において必要とされる課題と現段階の達成状況を理解し、社会学的な観点から考察できるようになる。
	後期	教職に関する基礎的な知識(例えば教育社会学の概念や、道徳教育のあり方)を理解できる。社会科学習指導のための知識と技能(高等学校学習指導要領解説公民編の基本的な内容)を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識を習得できる。例えば、経済学の基礎的な知識を習得し、経済の仕組みを理解すると共に、社会問題を深く理解することができる。また、哲学・倫理学の基礎的な知識を習得することにより、社会的事象を多角的な視点から考察する力が身につく。
3年次	前期	教育課程の意義や編成方法、特別活動の目標や指導方法についての知識が身につく。生徒指導や進路指導の方法、教育経営の意義について理解できる。高等学校学習指導要領解説公民編に関して教材分析に踏み込んだ内容を理解し、授業設計の力を身につける。教育実習を通して、高等学校公民分野の教員としての教科指導や生徒指導における実践力を身につける。学校防災についての知識が身につく。教科に関する知識、例えば国際政治についての幅広い知識や、倫理学の基本文献を読解する力が習得する。
	後期	教育相談の基礎的な理論と技術を習得し、学校における相談活動で対象となる問題などを理解することができる。現場の事例を学習することで、課題解決と予防につながる支援方法を説明できるようになる。地域社会の教育計画を学ぶことで、地域の教育政策における課題や目標に関心を持ち、理解を深めることができる。教科に関する知識と技能を深めることができる。例えば哲学・倫理学の文献を深く読解する力が身につく。
4年次	前期	卒業研究を通して、これまでの学修成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教員になるために必要と考える専門科目を履修し、さらに深い専門的知識と技能を身につける(例えばマクロ経済学)。
	後期	卒業研究を通して、これまでの学修成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教職実践演習を通して、自己の教職への適性を再確認するとともに、教員になるうえで不足している知識と技能を補う。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（公民））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職論	心理学概論		日本国憲法		
		教育原論			英語Ⅰ（コミュニケーション英語）		
					スポーツセミナー		
					データ解析基礎		
	後期	発達心理学	社会学概論				
		特別支援教育総論					
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	政治過程論	学校・地域における食育			
		教育実践基礎実習（中・高）	国際法1				
			男女共同参画社会と教育				
	後期	総合的な学習の時間論	社会と学力	地域社会とウェルビーイング			
		教育社会学	経済学概論	生涯学習論			
		社会・公民科教育法	哲学・倫理学概論	道徳教育の理論と実践			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）	
	3年次	前期	教育課程編成論	グローバル・ガバナンス論1	教員になるための学校防災		
			特別活動論	社会と文化			
生徒指導・進路指導			哲学・倫理学基礎演習				
教育経営学							
教育実践実習B							
社会の教材分析B							
後期		教育相談	哲学・倫理学演習A	地域社会の教育計画			
集中		教育実践実習事前・事後指導（中・高）					
4年次	前期		マクロ経済学1				
	後期	教職実践演習	哲学・倫理学演習B				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（数学））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養（日本国憲法の基本的概念，コンピュータに関する基本的な知識と技能，基礎的な英語力など）を身につける。教育の本質（哲学と歴史），教員の社会的役割，職務，倫理及び研修制度などを理解し，教育観を身につけるとともに自己の教職への適性を理解できる。教科に関する基礎的な知識（代数学の基礎）を理解できる。
	後期	教科に関する基礎的な知識（幾何学・解析学の基礎など）を理解できる。特別支援教育についてその現状と方法を学ぶ。発表や討議活動等の言語活動（英語を含む）を通して，コミュニケーションスキルを身につける。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識（学習の心理学的メカニズム，教育方法・技術の基礎概念など）を理解できる。数学科教育の現状と課題について理解し，高等学校学習指導要領における目標の意味や内容を理解する。その上で，高等学校数学の学習指導案の作成や具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（確率・統計学の基礎やデータサイエンス，教員になるために必要なプログラミングなど）を理解できる。
	後期	教職に関する基礎的な知識（教育社会学の概念など）を理解できる。高等学校学習指導要領解説数学編に基づいて，新しい数学科教育の理論を理解し，これまでの学習をもとに，高等学校数学の具体的な教材を分析し，開発することができる。教科に関する基礎的な知識と技能（代数学の発展的な内容やデータ分析の基礎など）を習得できる。
3年次	前期	教職に関する知識（教育課程の意義と課題，特別活動の実践上の課題など）を理解できるとともに，指導計画・指導案を立案できる。これまでの学習をもとに，高等学校数学の具体的な教材をさらに広い領域に渡って分析し，開発することができる。教科に関する知識と技能（代数学や統計学の発展的な内容など）を理解できる。
	後期	教職に関する知識と技能（カウンセリングに関する知識と技能，学校における相談活動で対象となる問題など）を理解できる。数科学習指導の基礎的な知識と技能（高等学校学習指導要領解説数学編の内容）を理解し，授業設計ができる。教科に関する知識と技能（幾何学や解析学の発展的な内容など）を説明できる。教育実習に向けての基礎的な素養を確認する。
4年次	前期	教育実習を通して，数学教員としての教科指導・生徒指導における実践力を身につける。これまでの授業及び教育実習を通して，教育に対する使命感・情熱を持ち，教員としての職務を理解し，高等学校数学のあらゆる教育内容について主体的に指導実践できる。生徒の状況に応じて，適切な教材・教具を選定し，授業計画や学習形態を工夫することができる。
	後期	卒業研究を通して，これまでの学習成果を実践・検証して，総合的な実践能力へと高めることができる。教職実践演習を通じて，自己の教職への適性を再確認するとともに，教員になるための不足している知識と技能を身につける。数学に関する豊かな識見を基盤として数学科教育に活かすことができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（数学））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論	代数学概論		日本国憲法	
		教育原論			スポーツセミナー	
					英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
				データ解析基礎		
	後期	特別支援教育総論	解析学概論			
	発達心理学	幾何学概論				
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	確率・統計学概論			
		数学科教育法	データサイエンス入門			
		教育実践基礎実習（中・高）	教員になるためのプログラミング入門			
	後期	総合的な学習の時間論	データ分析入門	地域社会とウェルビーイング		
		数学の教材分析A	データ構造とアルゴリズム	道徳教育の理論と実践		
			代数入門			
集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）	
3年次	前期	教育課程編成論	数理統計学	教員になるための学校防災		
		特別活動論	コンピュータアーキテクチャ			
		生徒指導・進路指導				
		教育経営学				
		数学の教材分析B				
	後期	教育相談	多変量解析	地域社会の教育計画		
		数学科実践演習	離散幾何			
集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）					
4年次	前期	教育実践実習C				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（理科））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養（日本国憲法の基本理念、情報倫理に関する基本的な知識と技能、健康とスポーツ科学、基礎的な英語力など）を身につける。教育の本質（哲学と歴史）、教員の社会的役割・職務、倫理及び研修制度などを踏まえて、自己の教職への適性を理解できる。
	後期	教職に関する基礎的な知識（児童の心身の発達過程と特徴、特別支援教育についてその現状と方法）を理解する。教科に関する基本的な知識（地球を構成する岩石や鉱物の分類とそれらの成因、地球システム、地球史、海洋環境など）を理解できる。発表や討議活動等の言語活動（英語を含む）を通して、コミュニケーションスキルを身につける。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識（教育方法・技術の基礎概念、児童の学習に対する心理的な課題など）を理解できる。理科教育の現状と課題について学び、高等学校学習指導要領における目標の意味や内容を理解する。その上で、高等学校理科の学習指導案の作成や具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、古典力学を中心とした物理学や、無機化学・有機化学、生物学の基礎的な知識、地形図や地質図の読解、岩石薄片作成や偏光顕微鏡の操作・観察法、生態学や無機化学、地球環境に関する専門的知識）を理解できる。高等学校教育実習に向けた心構えを身につける。
	後期	教職に関する基礎的な知識（教育社会学の概念、総合的な学習の時間の指導のあり方など）を理解できる。理科学習指導の基礎的な知識と技能（小学校・中学校における理科教育の連続性を踏まえつつ、高等学校学習指導要領解説理科編のうち物理学、化学分野）を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、電磁気学、波動などの基礎的な物理学実験と、無機化学、有機化学の操作を含む化学実験、物理現象の数学的な取り扱いと生物学的思考力を育成する演習）を身につける。教育実習に向けての基礎的な素養を確認する。道徳指導のあり方、及びウェルビーイング増進の必要性を理解し、地域活動との関わりを生かした教育を行うための具体的な方策を説明できる。
3年次	前期	教職に関する知識（教育課程の意義と課題、学校経営上の課題、特別活動の実践上の課題、進路指導や生徒指導で対象となる問題など）を理解できるとともに、それらを踏まえて指導計画・指導案を立案できる。理科学習指導の基礎的な知識と技能（小学校・中学校における理科教育の連続性を踏まえつつ、高等学校学習指導要領解説理科編のうち生物学、地学分野）を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、無機化学と岩石学に関する演習、顕微鏡を用いた植物細胞や動物細胞の観察・実験、STEAM教育に対する課題と実践に関する知識、熱力学と地質・古生物学に関する専門的知識）を習得できる。教員として子供と自身の安全を守るための学校防災の理論を理解する。
	後期	教職に関する知識（学校カウンセリングに関する基礎的な知識と技能、学校における相談活動で対象となる問題など）を理解できる。高等学校学習指導要領解説理科編に基づいて、新しい理科教育の理論を理解し、これまでの授業や実習の経験をもとに、中学校理科の具体的な教材を分析し、開発することができる。教科に関する基礎的な知識と技能（中等理科実験での実験指導に関する力）を習得する。山形県の地域社会の実態を把握した上で、教育を計画する力を身につける。
4年次	前期	高等学校における教育実習を通して、理科教員としての教科指導・生徒指導における実践力を身につける。これまでの授業及び教育実習を通して、教育に対する使命感・情熱を持ち、教員としての職務を理解し、理科のあらゆる教育内容について主体的に指導実践できる。生徒の状況に応じて、適切な教材・教具・治具を選定し、授業計画や学習形態を工夫することができる。
	後期	卒業研究を通して、これまでの学習成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。履修カルテに基づいて、自己の教職への適性を再確認するとともに、教員になるための不足している知識と技能を身につける。自然科学に関する豊かな識見を基盤として理科教育に生かすことができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（理科））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論			日本国憲法	
		教育原論			スポーツセミナー	
					英語 I (コミュニケーション英語)	
				データ解析基礎		
	後期	発達心理学	地学概論			
	特別支援教育総論					
2年次	前期	教育方法・技術(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	物理学概論			
		学習心理学	化学概論			
		理科教育法	生物学概論			
		教育実践基礎実習(中・高)	地学実験			
			生態学 I			
			無機化学 I			
		地球環境史論				
	後期	教育社会学	物理学演習	地域社会とウェルビーイング		初等教科教育法 I (理科)
		総合的な学習の時間論	生物学演習	道徳教育の理論と実践		
		理科の教材分析A	物理学実験			
			化学実験			
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				
	3年次	前期	教育課程編成論	化学演習	教員になるための学校防災	
教育経営学			地学演習			
特別活動論			生物学実験			
生徒指導・進路指導			STEAM教育論			
理科の教材分析B			熱力学			
		地質・古生物学 I				
後期		教育相談	中等理科実験	地域社会の教育計画		
		理科実践演習				
集中		教育実践実習事前・事後指導(中・高)				
4年次		前期	教育実践実習C			
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（音楽））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につくために必要とされる憲法と人権尊重、データサイエンスに関する基礎的な知識と技能、健康とスポーツ科学、基礎的な英語能力などの教養およびファシリテーションの基礎的技術を身につけている。教職の意義、高等学校音楽科教員に求められる資質能力、多様な教育理念を踏まえて、自己の教育観を明確にする。西洋芸術音楽等世界の諸地域の音楽への理解を通じて、社会の中での音楽を考察することができる。ソルフェージュの学修を通じて、豊かな音楽表現へとつなげられる基礎的な能力を身につけている。
	後期	青年期の心理的特性を踏まえた学習活動や指導法について理解している。特別の支援を必要とする子どもの障害の特性を踏まえた個別の指導計画や教育支援計画を作成することができる。表現や鑑賞の土台となる音楽理論を理解し、楽曲の構造を把握することができる。管弦打楽器及び鍵盤楽器の構造・機能を理解し、基礎的な演奏技術を身につけている。発声法と呼吸法の実践的な学修を通じて、声のメカニズムを理解し声楽の基礎技術を身につけている。
2年次	前期	主体的対話的で深い学びの実現に必要な基礎的な指導技術と情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を身につけている。地域社会の課題を理解しながら、食育のあり方を計画することができる。高等学校音楽科の指導に関する基礎的事項を理解し、指導法を考案・実践することができる。基礎的な和声学の学修を通じて、楽曲を分析することができる。管弦打楽器及び鍵盤楽器及び声楽の演奏技術を高めるとともに、時代や様式に沿った音楽表現をすることができる。基礎的な声楽技術を活用し、音楽を集団で表現することができる。
	後期	昨今の教育現象を理解し、ウェルビーイング増進につながる地域連携教育を行うために必要とされるコーディネートとファシリテーションの実践的な技術について説明できる。総合的な学習の時間の指導場面を想定しながら探究的な学習を実践するための指導計画を作成することができる。道徳教育について理解を深めた上で、道徳科の学習指導案を作成できる。対位法の学修を生かした楽曲分析を行うことができる。音楽科教材の諸要素を分析し、学習指導法を考案、模擬授業の中で実践することができる。声楽によるアンサンブル音楽を豊かに表現することができる。
3年次	前期	学習指導要領改定の変遷とカリキュラム・マネジメントによる授業改善の意義及び評価方法を理解し、説明することができる。地域における適切な学校の防災管理と防災教育の方法について説明できる。生徒指導・進路指導における適切な指導法を立案・検討できる。教育実習の場で生徒や教育の実態を把握した上で、高等学校音楽科教員として適切な学習指導案を作成し、授業実践を行うことができる。合奏活動及び合唱活動に係る教材分析をもとに実践的な指導を行うことができる。指揮法の基礎的な技術を身につけ、集団による音楽を充実させることができる。日本の伝統音楽の構造を理解しながら、声楽・器楽ともに表現することができる。
	後期	学校教育における課題を理解し、スクールカウンセリングの基礎的な理論と技法に基づいた適切な対応ができる。自身の教育実習を省察し、音楽科教育の今日的課題と生徒の実態に即した指導のあり方を検討し、実習での課題解決につながる教材分析と模擬授業を行うことができる。音楽活動におけるコミュニケーション能力を生かしながら、声や様々な楽器によるアンサンブル音楽を豊かに表現することができる。
4年次	前期	これまでの授業及び教育実習を通して、高等学校音楽科教員としての職務を理解し、音楽の深い専門的知識と技能を生かした適切な指導案を作成することができる。生徒の実態に応じた事後検討から授業実践を改善し、指導法や授業計画を工夫することができる。
	後期	教科指導及び生徒理解・学級経営の実践力を身につけ、現在の教育や生徒の実態に即した課題を発見し、解決への方策を考案することができる。音楽科に関する専門的な知識・技能を高めながら、子どもの発達段階・学習課題に合わせた教科指導の方針を説明できる。教員として使命・サービス・倫理を自覚し、地域社会における音楽文化振興や生涯学習への課題を認識しながら、地域との協働作業を円滑に進められるようなコミュニケーションができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（音楽））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職論	音楽史概論		日本国憲法		
		教育原論	ソルフェージュ		スポーツセミナー		
					英語 I (コミュニケーション英語)		
	後期				データ解析基礎		
		特別支援教育総論	音楽理論				
		発達心理学	声楽A				
2年次	前期	音楽科教育法	声楽B	学校・地域における食育			
		教育方法・技術(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	器楽B				
			作曲法A				
			合唱基礎				
	後期	音楽の教材分析A	作曲法B	地域社会とウェルビーイング			
		教育社会学	合唱応用	道徳教育の理論と実践			
		総合的な学習の時間論					
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				教育臨床体験(介護等体験)	
	3年次	前期	音楽の教材分析B	日本音楽演習(器楽)	教員になるための学校防災		
			教育課程編成論	日本音楽演習(歌唱)			
特別活動論			アンサンブル基礎				
生徒指導・進路指導			指揮法				
教育実践実習B							
後期		音楽科実践演習	アンサンブル応用				
		教育相談					
集中		教育実践実習事前・事後指導(中・高)					
4年次	前期						
	後期	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（美術））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教育の理念ならびに教育に関する歴史及び思想について理解している。平面造形および立体造形の基礎知識と技術を体得し、造形的美しさや材料道具との関係の基本を把握し、造形芸術の史の変遷と基礎的概念や知識を獲得している。教職につくために必要とされる憲法と人権尊重、データサイエンスに関する基礎的な知識と技能、健康とスポーツ科学の理念、基礎的な英語能力などの教養およびファシリテーションの基礎的概念を身につけている。
	後期	生徒の心身の発達過程と特徴を理解し、発達を踏まえた学習指導の基礎となる考え方や、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性を理解している。彫刻、デザインの各表現に関する基礎的な演習を通して、各表現の特徴について説明することができる。
2年次	前期	主体的・対話的で深い学びの実現に必要な基礎的な指導技術と情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を身につけている。絵画の基礎的な演習を通して絵画表現の特徴について説明することができる。彫刻・デザインの表現演習や日本美術史の鑑賞に関する講義を通して、表現技術と鑑賞能力を高め、教材化に向けた主題の設定方法について理解できるようになる。美術科の目標、指導計画、評価の基本事項を理解し、題材・教材の分析を通して、教材研究および授業づくりの基本的な能力を身につけている。生徒指導・進路指導に関する基本的な考え方や方法を把握している。1週間の教育実習を通して生徒と関わり、教員としての基礎的な能力を身につけている。
	後期	総合的な学習の時間の指導場面を想定しながら探求的な学習を実践するための指導計画を作成することができる。今日的な教育現象を教育社会学の概念を用いて理解している。絵画と彫刻、デザインに関する表現や応用の演習を通して、表現技術と鑑賞能力をより一層高め、美術科の目標を達成するための学習指導と評価に関する知識を踏まえて模擬授業を行うことができる。生涯学習社会における造形美術が持つ役割と、ウェルビーイング増進の必要性を理解し、地域社会のウェルビーイング増進につながる地域活動との関わりを生かした教育を行うために必要とされるコーディネートとファシリテーションの実践的な技術について説明できる。
3年次	前期	学習指導要領改訂の変遷と授業改善の意義及び評価方法を理解し説明することができる。初等中等教育を支える制度や学校の経営について基本的な仕組み、実態と今日的な課題を理解している。特別活動の指導法について理解できる。造形表現の諸領域を跨いだ総合的な表現演習を通して表現能力の向上を図ると同時に、美術科の授業内容や要件の理解を深め、具体的な題材・教材を設定した学習指導案を作成し、模擬授業と授業改善の検討を行うことができる。地域の地理的条件を踏まえた適切な学校の防災管理と防災教育の方法について説明できる。教育実習において生徒の実態を把握し、授業実践を通して教員として必要な実践力を高めると同時に、教科に必要な指導力を考察することができる。
	後期	学校カウンセリングの基礎的な理論と技法を踏まえて実際の学校現場の事例について課題解決策と予防につながる支援方法を説明できる。絵画表現の応用的演習を通して、制作者・教育者としての審美眼・鑑識眼を向上することができる。教育実習を振り返り、強化すべき観点を抽出し、指導の改善方法を考察することができる。山形県の教育課題を踏まえながら山形県教育振興計画が目標とするウェルビーイングを目指した学級経営案を作成し、その効果について説明できる。
4年次	前期	中学校他教科や小学校あるいは特別支援学校における副免許状に関わる教育実習の場などにおいて大学で学んだ内容を活かして児童・生徒と関わり、適切な学習指導案を作成し授業実践を行なった後、事後検討を経て授業改善することができる。地域における多様な学びを支援する学校内外の組織・団体等の支援スタッフと教員との連携、フリースクール等の学校外の組織・団体との連携・協働のあり方に対する自らの具体的な見通しについて説明できる。
	後期	教員としての使命感と情熱を持ち、教員としての職責と義務を自覚し、個々の事象に応じた適切な判断と行動をとることができる。また、生徒の関心や地域資源を積極的に活用し、授業計画や学習形態を工夫することができる。卒業研究として3年間の学習成果を総合し、表現技術ならびに鑑賞能力と地域社会における芸術課題を通して得た課題解決の経験を応用・活用することで、実践的な教材開発やプログラムを立案し、実践・検証することができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（美術））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	造形基礎演習B		日本国憲法	
		教職論	造形史概説		スポーツセミナー	
					英語Ⅰ（コミュニカティブ英語）	
				データ解析基礎		
	後期	発達心理学	彫刻基礎			
	特別支援教育総論	デザイン基礎				
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。）	絵画基礎			
		美術科教育法	彫刻表現演習			
		美術の教材分析A	デザイン表現演習			
		生徒指導・進路指導	造形史特論			
		教育実践基礎実習（中・高）	日本美術史概説			
	後期	総合的な学習の時間論	絵画表現演習	地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学	彫刻応用演習			
			彫刻論			
			デザイン応用演習			
			生涯学習と造形			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）
3年次	前期	教育課程編成論	造形表現総合演習	教員になるための学校防災		
		特別活動論				
		美術科実践演習				
		美術の教材分析B				
		教育経営学				
		教育実践実習B				
	後期	教育相談	絵画応用演習	地域社会の教育計画		
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				
4年次	前期					
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（保健体育））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職に就く上で必要な幅広い教養（日本国憲法の基本的概念、情報機器に関する基本的な知識と技能、基礎的な英語力など）を身につける。教育の意義や本質を理解するとともに自己の教職への適性を理解できる。健康・スポーツに関する基礎的な知識や生涯スポーツの意義を理解し、また、保健体育の体育領域（体づくり運動・武道・ダンス）に関する技能や応急処置の方法と実践能力を身につける。
	後期	教職に関する基礎的な知識（加齢に伴う人間の発育・発達に関する心理学的知識）を理解できる。体づくり運動や地域特性に応じた冬季スポーツ（スキー）の基本的な技能、トレーニング・応急処置の方法と実践能力を身につける。発表や闘技活動等の言語活動（英語を含む）を通して、コミュニケーションスキルを身につける。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識（教育方法・技術の基礎概念や学習者の心理的特徴など）を理解できる。保健体育科教育の現状と課題について理解し、中学校学習指導要領における目標の意味や内容を理解する。その上で1週間の教育実習を通して教員に必要な基礎的資質（知識・技能・態度）を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、体育・スポーツの実践を支える生理学・社会学・心理学的な知見、また、器械運動や陸上競技、水泳の技能など）を身につける。地域社会の課題を理解しながら、食育のあり方を計画することができる。
	後期	教職に関する基礎的な知識（道徳教育や総合的な学習の時間の基礎理論、教育社会学の概念、地域連携教育によるウェルビーイング増進の実践論など）を理解できる。保健体育科の意義や学習指導の基礎的な知識と技能を理解し、授業設計ができる。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、学校保健や公衆衛生及びスポーツとスポーツ実践者の在り方についての力学的・栄養学的観点からの知見、また、球技（ゴール型・ネット型）の技能）を習得できる。
3年次	前期	教職に関する知識（教育経営のあり方、生徒指導・進路指導の考え方や学校防災のあり方など）を理解できるとともに、指導計画・指導案を立案できる。保健体育科の教材について幅広い知見を獲得し、3週間の教育実習を通して具体的な指導方法を身につける。教科に関する基礎的な知識と技能（例えば、体育とスポーツにおける文化論・コーチング学的な観点からの知見）を身につける。
	後期	教職に関する知識と技能（地域社会の教育計画、カウンセリングに関する知識と技能など）を理解できる。教科に関する基礎的な知識と技能（球技（ゴール型・ベースボール型）の技能）を習得できる。中学校学習指導要領解説保健体育科編に基づいて、新しい保健体育科教育の理論を理解し、これまでの授業や実習の経験をもとに、中学校保健体育科の具体的な教材を分析し、開発することができる。
4年次	前期	卒業研究への取り組みをとおして、保健体育・スポーツの現状や学的な蓄積についての認識を深め、現実の社会において生起する問題・課題を発見することができる。また、そうした問題・課題についてみずから主体的に取り組み、かつ解決していくための態度と思考力を身につける。
	後期	教職実践演習を通じて、自己の教職への適正を再確認するとともに教員になるための不足している知識と技能を身につける。教員としての使命感や情熱を認識し、その職責や義務を再確認するとともに、これまでの講義および教育実習をとおして身につけてきた資質能力をもとに、個々の事象に応じた適切な行動をとることができる。生徒の状況に応じて、授業計画や学習形態を工夫することができる。また、卒業研究を通して体育・スポーツに関する科学的な方法を身につける。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（保健体育））

(2)具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目	
年次	時期						
1年次	前期	教職論	体育スポーツ実技(武道・ダンス)		日本国憲法		
		教育原論	保健体育入門A		スポーツセミナー		
					英語Ⅰ(コミュニケーション英語)		
	後期				データ解析基礎		
		特別支援教育総論	保健体育入門B				
集中	発達心理学						
2年次	前期		体育スポーツ実技(冬季スポーツ)				
		保健体育科教育法	スポーツ社会学	学校・地域における食育			
		教育方法・技術(情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む)	スポーツ生理学				
			スポーツ心理学				
	集中		体育スポーツ実技(水泳)				
	後期		保健体育の教材分析A	スポーツバイオメカニクス	地域社会とウェルビーイング		
			教育社会学	スポーツ栄養学	道徳教育の理論と実践		
			総合的な学習の時間論	衛生・公衆衛生学			
				体育スポーツ実技(球技A)			
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)				教育臨床体験(介護等体験)	
3年次	前期	保健体育の教材分析B	学校保健	教員になるための学校防災			
		教育課程編成論	スポーツ文化論				
		特別活動論	コーチング論				
		生徒指導・進路指導					
		教育実践実習B					
	後期	保健体育科実践演習	体育スポーツ実技(球技B)				
		教育相談					
	集中	教育実践実習事前・事後指導(中・高)					
4年次	前期						
	後期	教職実践演習					

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（情報））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につく上で必要な幅広い教養（日本国憲法の基本的概念、コンピュータに関する基本的な知識と技能、基礎的な英語力など）を身につける。教育の本質（哲学と歴史）、教員の社会的役割、職務、倫理及び研修制度などを理解し、教育観を身につけるとともに自己の教職への適性を理解できる。高等学校情報科教諭に必要な教科に関する基礎的な知識（情報倫理、マルチメディア表現等）を理解できる。
	後期	特別支援教育についてその現状と方法を学ぶ。発表や討議活動等の言語活動（英語を含む）を通して、コミュニケーションスキルを身につける。また、生徒の特徴を理解し、発達を踏まえた学習指導の基礎となる考え方を身につける。
2年次	前期	教職に関する基礎的な知識（学習の心理学的メカニズム、教育方法・技術の基礎概念など）を理解できる。情報科教育の現状と課題について理解し、高等学校学習指導要領における目標の意味や内容を理解する。その上で、高等学校情報の学習指導案の作成や具体的な指導方法を身につける。 教科に関する基礎的な知識と技能（情報システムやデータサイエンス、教員になるために必要なプログラミングなど）を理解できる。
	後期	教職に関する基礎的な知識（教育社会学の概念など）を理解できる。高等学校学習指導要領解説情報編に基づいて、新しい情報科教育の理論を理解し、これまでの学習をもとに、高等学校情報の具体的な教材を分析し、開発することができる。教科に関する基礎的な知識と技能（データ構造とアルゴリズム、プログラミングの発展的な内容など）を習得できる。
3年次	前期	教職に関する知識（教育課程の意義と課題、特別活動の実践上の課題など）を理解できるとともに、指導計画・指導案を立案できる。これまでの学習をもとに、高等学校情報の具体的な教材をさらに広い領域に渡って分析し、開発することができる。情報科学習指導の基礎的な知識と技能（高等学校学習指導要領解説情報編の内容）を理解し、授業設計ができる。教科に関する知識と技能（機械学習や情報ネットワーク技術、情報システム技術など）を理解できる。
	後期	教職に関する知識と技能（カウンセリングに関する知識と技能、学校における相談活動で対象となる問題など）を理解できる。教科に関する知識と技能（データ解析、コンピュータによるデータ分析など）を説明できる。教育実習に向けての基礎的な素養を確認する。
4年次	前期	教育実習を通して、情報教員としての教科指導・生徒指導における実践力を身につける。これまでの授業及び教育実習を通して、教育に対する使命感・情熱を持ち、教員としての職務を理解し、高等学校情報のあらゆる教育内容について主体的に指導実践できる。生徒の状況に応じて、適切な教材・教具を選定し、授業計画や学習形態を工夫することができる。
	後期	卒業研究を通して、これまでの学習成果を実践・検証して、総合的な実践能力へと高めることができる。教職実践演習を通じて、自己の教職への適性を再確認するとともに、教員になるための不足している知識と技能を身につける。情報に関する豊かな識見を基盤として、情報科教育に活かすことができる。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（情報））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教職論	情報社会論		日本国憲法	
		教育原論	情報倫理		スポーツセミナー	
					英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
				データ解析基礎		
	後期	特別支援教育総論	マルチメディア入門			
		発達心理学				
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	情報システムと教育			
		教育実践基礎実習（中・高）	データサイエンス入門			
			教員になるためのプログラミング入門			
	後期	総合的な学習の時間論	コンピュータネットワーク	地域社会とウェルビーイング		
		情報科教育法Ⅰ	データ構造とアルゴリズム	道徳教育の理論と実践		
		教育社会学	応用プログラミングA			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				
3年次	前期	教育課程編成論	機械学習入門	教員になるための学校防災		
		特別活動論	コンピュータアーキテクチャ			
		生徒指導・進路指導	応用プログラミングB			
		情報科教育法Ⅱ				
	後期	教育相談	多変量解析	地域社会の教育計画		
			データ解析			
			活用プログラミング			
集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				フィールドプロジェクト	
4年次	前期	教育実践実習C				
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（英語））

(1)各段階における到達目標

履修年次		到達目標
年次	時期	
1年次	前期	教職につくために必要とされる憲法と人権尊重、データサイエンスに関する基礎的な知識と技能、健康とスポーツ科学、基礎的な英語運用能力などの教養およびファシリテーションの基礎的技術を身につけている。教職の意義、教員に求められる資質能力、多様な教育理念を踏まえて、なりたい教師像を明確にした上で4年間の学習目標を立てることができる。英語科教員として必要な英語学分野の基礎的な知識と英会話能力を身につけている。
	後期	生徒の心身の発達過程と特徴を理解し、発達を踏まえた学習指導の基礎となる考え方を理解している。また、特別の支援を必要とする生徒の障害の特性を踏まえた個別の指導計画や教育支援計画を作成することができる。英語文学の基礎的な知識と、より高度な英会話能力を身につけている。
2年次	前期	主体的対話的で深い学びの実現に必要な基礎的な指導技術と情報機器を活用した教材の作成・提示の方法を身につけている。学習者の心理的メカニズムを理解し、教授学習の場面で活用できる。教育実習へ向けて、実践に関する基礎的知識を習得する。英語科教員として基礎的な指導法について理解する。第二言語習得論や異文化理解に関する基礎的な知識を身につけているとともに、英語学や英語文学のより専門的な内容に関する知識を獲得している。また、英語で文章を書く力を身につけている。
	後期	総合的な学習の時間の指導場面を想定しながら探求的な学習を実践するための指導計画を作成することができる。教育や学校を社会との関係の中で考え、よりよい在り方を提案できる。ウェルビーイング増進の必要性を理解し、地域社会のウェルビーイング増進につながる地域活動との関わりを生かした教育を行うために必要とされるコーディネートとファシリテーションの実践的な技術について説明できる。道徳教育の理論的な知識を身につけ、実際の指導に活かすことができる。教育実習へ向けて、実践に関する基礎知識を獲得している。英語の教材を理解して活用する基礎的な知識と技術を身につけているとともに、英語学、英語文学、第二言語習得論、異文化理解の専門的な内容について理解を深めている。
3年次	前期	学習指導要領改訂の変遷とカリキュラム・マネジメントによる授業改善の意義及び評価方法を理解し、説明することができる。特別課題を実践する上で必要な知識や、適切な生徒指導・進路指導を行うための知識と技術を身につけている。地域の地理的条件を踏まえた適切な学校の防災管理と防災教育の方法について説明できる。教育実習の場で生徒との関わりを通して生徒の実態を把握し、それを踏まえて適切な学習指導案を作成し、授業実践を行うことができる。教材を活用するためのより高度な知識と技術を身につけている。英語学と英語文学のさらに専門的な内容について理解を深めている。
	後期	学校カウンセリングの基礎的な理論と技法を踏まえて実際の学校現場の事例について課題解決策と予防につながる支援方法を説明できる。山形県の教育課題を踏まえながら山形県教育振興計画が目標とするウェルビーイングを目指してチャレンジする人間像に向けて生徒を育てるための学級経営案を作成し、その効果について説明できる。異文化理解に関する見識をさらに深めているとともに、英語科の授業を実践するための総合的な知識や技術を身につけている。教育実習を通して、教員としての職責を自覚し、教師としての基礎を身につけている。
4年次	前期	高等学校英語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を遂行するために、計画を立てて取り組んでいくことができている。英語文学の専門的な内容についてよりいっそう見識を深めている。
	後期	教員としての倫理・服務・使命感について当事者意識を持った説明ができる。履修カルテに基づいて適切な目標と履修計画を設定、実行し、目標を達成することができる。教科指導及び学級経営・生徒指導について最低限度の実践力を身につけると共に課題を自覚し、克服に向けた方策を説明できる。高等学校英語科教諭としての専門性を備えた卒業研究を遂行し、論文にまとめることができている。

様式第7号ウ（教諭）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：高一種免（英語））

（2）具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称				
		各教科の指導法に関する科目及び教育の基礎的理解に関する科目等	教科に関する専門的事項に関する科目	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	その他教職課程に関連のある科目
年次	時期					
1年次	前期	教育原論	英語学概論		日本国憲法	
		教職論	英語表現（英会話）基礎		スポーツセミナー	
					英語Ⅰ（コミュニケーション英語）	
					データ解析基礎	
	後期	発達心理学	英語文学概論			
		特別支援教育総論	英語表現（英会話）発展			
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	英語学演習A			
		学習心理学	第二言語習得論概論			
		教育実践基礎実習（中・高）	英語文学演習A			
		英語科教育法	英語表現（英作文）			
			異文化コミュニケーション概論			
	後期	総合的な学習の時間論	英語学演習B	地域社会とウェルビーイング		
		教育社会学	第二言語習得論演習	道徳教育の理論と実践		
		英語の教材分析A	英語文学演習B			
			異文化コミュニケーション特論			
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				教育臨床体験（介護等体験）
3年次	前期	教育課程編成論	英語学演習C	教員になるための学校防災		
		特別活動論	現代英語文学論			
		生徒指導・進路指導				
		教育実践実習B				
		英語の教材分析B				
	後期	教育相談	異文化コミュニケーション演習	地域社会の教育計画		
		英語科実践演習				
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）				
4年次	前期		児童英語文学論			
	後期	教職実践演習				

様式第7号ウ（特支）

＜学校教育教員養成課程＞（認定課程：特支一種免）（基礎免許状となる課程：小一種免）

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次	具体的な科目名称							
	基礎となる教諭の免許状に関する履修カリキュラム				特別支援教諭免許状に関する履修カリキュラム	その他教職課程に関連のある科目		
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	教科(領域)に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	特別支援教育に関する科目		
1年次	前期	教職論			日本国憲法			
		教育言論			英語Ⅰ(コミュニケーション英語)			
					スポーツセミナー			
					データ解析基礎			
	後期	特別支援教育総論	国語の基礎			英語Ⅰ(コミュニケーション英語)		
		発達心理学	外国語の基礎					
初等教科教育法Ⅰ(社会)								
初等教科教育法Ⅰ(算数)								
		初等教科教育法(生活)						
2年次	前期	教育方法・技術 (情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む。)	音楽の基礎				障害児教育総論	
		初等教科教育法Ⅰ(国語)	図画工作の基礎				知的障害児の心理・生理・病理	
		教育実践基礎演習(幼・小)	体育の基礎				肢体不自由児の心理・生理・病理	
			算数の基礎				肢体不自由児の教育	
							視覚障害児の心理と教育	
							聴覚障害児の心理と教育	
	後期	総合的な学習の時間論		地域社会とウェルビーイング				発達障害児の心理・生理・病理
		教育社会学						障害児の発達
		道徳教育の理論と実践						病虚弱児の心理・生理・病理
		初等教科教育法Ⅰ(理科)						知的障害児の教育
		初等教科教育法(音楽)						病虚弱児の教育
		初等教科教育法(図画工作)						
		初等教科教育法(家庭)						
		初等教科教育法(外国語)						
		初等教科教育法(体育)						
集中	教育実践実習事前・事後指導(幼・小)						教育臨床体験(介護等体験)	
3年次	前期	教育課程編成論		教員になるための学校防災			障害児の心理研究法	
		特別活動論					発達障害・重複障害児の教育	
		生徒指導・進路指導						
		初等教科教育法Ⅱ(国語)						
		初等教科教育法Ⅱ(社会)						
		初等教科教育法Ⅱ(算数)						
		初等教科教育法Ⅱ(理科)						
		教育実践実習A						
	後期	教育相談	理科の基礎(実験を含む)	地域社会の教育計画				
		教材開発演習						
	集中	教育実践実習事前・事後指導(幼・小)						
通年							知的障害児の教育経営	
4年次	前期						特別支援学校教育実習(事前・事後指導を含む)	
	後期	教職実践演習						
	集中	地域学校協働インターンシップ						

様式第7号ウ（特支）

<学校教育教員養成課程>（認定課程：特支一種免）（基礎免許状となる課程：中一種免（国語））

(2) 具体的な履修カリキュラム

履修年次		具体的な科目名称					その他教職課程に関連のある科目	
		基礎となる教諭の免許状に関する履修カリキュラム				特別支援教諭免許状に関する履修カリキュラム		
年次	時期	教育の基礎的理解に関する科目等	教科(領域)に関する専門的事項	大学が独自に設定する科目	施行規則第66条の6に関する科目	特別支援教育に関する科目		
1年次	前期	教職論		言語文化基礎論	日本国憲法			
		教育言論			英語Ⅰ（コミュニケーション英語）			
					スポーツセミナー			
					データ解析基礎			
	後期	発達心理学	国語学概論		英語Ⅰ（コミュニケーション英語）			
		特別支援教育総論	日本文学概論Ⅰ					
2年次	前期	教育方法・技術（情報通信技術を活用した教育の理論及び方法を含む）	国語学演習Ⅰ			障害児教育総論		
		教育実践基礎実習（中・高）	日本文学概論Ⅱ			知的障害児の心理・生理・病理		
		国語科教育法	漢文学概論			肢体不自由児の心理・生理・病理		
						肢体不自由児の教育		
						視覚障害児の心理と教育		
	後期					聴覚障害児の心理と教育		
		総合的な学習の時間論	国語学演習Ⅱ	地域社会とウェルビーイング		発達障害児の心理・生理・病理		
		教育社会学	日本文学講読	生涯学習論		障害児の発達		
		国語の教材分析A	漢文学講読	道德教育の理論と実践		病虚弱児の心理・生理・病理		
						知的障害児の教育		
	集中	教育実践実習事前・事後指導（中・高）					病虚弱児の教育	
							教育臨床体験（介護等体験）	
	3年次	前期	教育課程編成論	国語学講義	教員になるための学校防災		障害児の心理研究法	
			特別活動論	日本文学演習Ⅰ	読書と豊かな人間性		発達障害・重複障害児の教育	
生徒指導・進路指導			漢文学演習Ⅰ					
教育実践実習B								
教育経営学								
国語の教材分析B								
後期		教育相談	日本文学演習Ⅱ	地域社会の教育計画				
		国語科実践演習	漢文学演習Ⅱ					
集中		教育実践実習事前・事後指導（中・高）						
通年						知的障害児の教育経営		
4年次	前期		国語学特別講義			特別支援学校教育実習（事前・事後指導を含む）		
			日本文学特別講義					
			漢文学特別講義					
	後期	教職実践演習						